

列王紀略上

第一章 一愛にダビデ王年邁みて老い寝衣を衣するも温らざりければ二其臣僕等彼にいひけるは王わが主のために一人の若き處女を求めしめて之をして王のまへにたちて王の左右となり汝の懷に臥て王わが主を暖めしめんと三彼等乃ちイスラエルの四方の境に美き童女を求めてシユナミ人アビシヤグを得て之を王に携きたれり四此童女甚だ美くして王の左右となり王に事たり然ど王之と交はらざりき五時にハギテの子アドニヤ自ら高し我は王とならんとて己のために戰車と騎兵および自己のまへに驅る者五十人を備へたり六其父は彼が生れてより己來汝何故に然するやとてかかれを痛しめし事なかりきアドニヤも亦容貌の甚だ美き者にてアブサロムの次に生れたり七彼ゼルヤの子ヨアブおよび祭司アビヤタルと商議ひしかば彼等之に従ひゆきて助けたりハされど祭司ザドクとエホヤダの子ベナヤと預言者ナタンおよびシメイとレイならびにダビデに屬したる勇士はアドニヤに與せざりき九アドニヤ、エングゲルの近邊なるゾヘレテの石の傍にて羊と牛と肥畜を宰りて王の子なる己の兄弟および王の臣僕なるユダの人を盡く請けり一〇されども預言者ナタンとベナヤと勇士とおのれの兄弟ソロモンとをば招かざりき二愛にナタン、ソロモンの母バテシバに語りていひけるは汝ハギテの子アドニヤが王となれるを聞ざるかしかる

にわれらの主ダビデはこれを知ざるなり二三されば請ふ來れ我汝に計を授て汝をして己の生命と汝の子ソロモンの生命を救しめんと四汝往てダビデ王の所に入り之にいへ王わが主よ汝は婢に誓ひて汝の子ソロモンは我に繼で王となりわが位に坐せんといひたまひしにあらざるや然にアドニヤ何故に王となれるやと四われまた汝が尚其處にて王と語ふ時に汝に次て入り汝の言を證すべしと五是においてバテシバ寢室に入りて王の所に入たるに王は甚だ老てシユナミ人アビシヤグ王に事へ居たり一六バテシバ躬を鞠め王を拝す王いふ何なるや一七かれ王にいひけるはわが主汝は汝の神エホバを指て婢に汝の子ソロモンは我に繼で王となりわが位に坐せんと誓ひたまへり一八しかるに視よ今アドニヤ王となれり而て王わが主汝は知たまはず一九彼は牛と肥畜と羊を饒く宰りて王の諸子および祭司アビヤタルと軍の長ヨアブを招けりされど汝の僕ソロモンをば招かざりき二〇汝王わが主よイスラエルの目皆汝に注ぎ汝が彼等に誰が汝に繼で王わが主の位に坐すべきを告るを望む二一王わが主の其父祖と共に寝たまはん時に我とわが子ソロモンは罪人と見做さるるにいたらんと二三バテシバ尚王と語ふうちに見よ預言者ナタンも亦入きたりければ二三人々王に告て預言者ナタン此ありと曰ふ彼王のまへに入り地に伏て王を拜せり二四しかしてナタンいひけるは王わが主汝はアドニヤ我に繼で王となりわが位に坐すべしといひたまひしや二五彼は今日下りて牛と肥畜と

羊を饒く宰りて王の諸子と軍の長等と祭司アビヤタルを招けりしかして彼等はアドニヤのまへに飲食してアドニヤ王 壽かれと言ふニ六 されど汝の僕なる我と祭司ザドクとエホヤダの子ベナヤと汝の僕ソロモンとは彼請かざるなりニ七 此事は王わが主の爲たまふ所なるかしかるに汝誰が汝に継で王わが主の位に坐すべきを僕に知せたまはざるなりとニ八 ダビデ王答ていふバテシバをわが許に召せと彼乃ち王のまへに入て王のまへにたつにニ九 王誓ひていひけるはわが生命を諸の艱難の中に救ひたまひしエホバは活くニ〇 我イスラエルの神エホバを指て誓ひて汝の子ソロモン我に継で王となり我に代りてわが位に坐すべしといひしごとくに我今日爲すべしとニ一 是においてバテシバ躬を鞠め地に伏て王を拜し願くはわが主ダビデ王長久に生ながらへたまへといふニ二 ダビデ王いひけるはわが許に祭司ザドクと預言者ナタンおよびエホヤダの子ベナヤを召と彼等乃ち王のまへに来るニ三 王彼等にいひけるは汝等の主の臣僕を伴ひわが子ソロモンをわが身の騾に乗せ彼をギホンに導き下りニ四 彼處にて祭司ザドクと預言者ナタンは彼に膏をそそぎてイスラエルの上に王と爲すべししかして汝ら喇叭を吹てソロモン王の壽かれと言へニ五 かくして汝ら彼に隨ひて上り來るべし彼は來りてわが位に坐し我に代りて王となるべし我彼を立てイスラエルとユダの上に主君となせりとニ六 エホヤダの子ベナヤ王に對へていひけるはアメンねがはくは王わが主の神エホバ然言た

まはんことをニ七 ねがはくはエホバ王わが主とともに在せしごとくソロモンとともに在してその位をわが主ダビデ王の位よりも大ならしめたまはんことをニ八 斯て祭司ザドクと預言者ナタンおよびエホヤダの子ベナヤ並にケレテ人とペレテ人下りソロモンをダビデ王の騾に乗せて之をギホンに導きいたれりニ九 しかして祭司ザドク幕屋の中より膏の角を取てソロモンに膏そそげりかくて喇叭を吹きならし四〇 民みなソロモン王 壽かれと言ひ民みなかれに隨ひ上りて笛を吹き大に喜祝ひ地はかれらの聲にて裂たり四一 アドニヤおよび彼とともに居たる賓客其食を終たる時に皆これを聞りヨアブ喇叭の聲を聞ていひけるは城邑の中の聲音何ぞ喧囂やと四二 彼が言をる間に視よ祭司アビヤタルの子ヨナタン來るアドニヤ彼にいひけるは入よ汝は勇ある人なり嘉音を持きたれるならん四三 ヨナタン答へてアドニヤにいひけるは誠にわが主ダビデ王ソロモンを王となしたまへり四四 王祭司ザドクと預言者ナタンおよびエホヤダの子ベナヤ並にケレテ人とペレテ人をソロモンとともに遣したまふ即ち彼等はソロモンを王の騾に乗せてゆき四五 祭司ザドクと預言者ナタン、ギホンにて彼に膏をそそぎて王となせり而して彼等其處より飲て上るが故に城邑は誦囂し汝らが聞る聲音は是なり四六 又ソロモン國の位に坐し四七 且王の臣僕來りてわれらの主ダビデ王に祝を陳て願くは汝の神ソロモンの名を汝の名よりも美し其位を汝の位よりも大たらしめたまへと言りしかして王は

牀の上にて拜せり四八王また斯いへりイスラエルの神エホバは  
 ほむべきかなエホバ今日わが位に坐する者を與たまひてわが目  
 亦これを見るなりと四九アドニヤともにある賓客皆驚愕き起  
 て各其途に去りゆけり五〇茲にアドニヤ、ソロモンの面を恐れ  
 起て行き壇の角を執へたり五一或人ソロモンに告ていふアドニ  
 ヤ、ソロモン王を畏る彼壇の角を執て願くはソロモン王今日我  
 に劍をもて僕を殺じと誓ひ給へと言たりと五二ソロモンいひけ  
 るは彼もし善人となるならば其髪の一すぢも地におちざるべ  
 し然ど彼の中に惡の見るあらば死しむべしと五三ソロモン王乃  
 ち人を遣て彼を壇より携下らしむ彼來りてソロモン王を拜し  
 ければソロモン彼に汝の家に往といへり

第二章一ダビデ死ぬる日近よりければ其子ソロモンに命じてい  
 ふ二我は世人の皆往く途に往んとす汝は強く丈夫のごとく爲れ  
 三汝の神エホバの職守を守り其道に歩行み其法憲と其誠命と其  
 律例と其謔言とをモーセの律法に録されたるごとく守るべし然  
 らば汝凡て汝の爲どころと凡て汝の向ふところにて榮ゆべし四  
 又エホバは其嘗に我の事に付て語りて若汝の子等其道を慎み  
 心を盡し精神を盡して眞實をもて吾前に歩ばイスラエルの位に  
 上る人汝に缺ることなかるべしと言たまひし言を堅したまは  
 ん五又汝はゼルヤの子ヨアブが我に爲たる事即ち彼がイスラ  
 エルの二人の軍の長ネルの子アブネルとエテルの子アマサに  
 爲たる事を知る彼此二人を切殺し太平の時に戦の血を流し戦の

血を己の腰の周圍の帶と其足の履に染たり六故に汝の智慧にし  
 たがひて事を爲し其白髪を安然に墓に下らしむるなかれ七但し  
 ギレアデ人バルジライの子等には恩恵を施し彼等をして汝の  
 席にて食ふ者の中にあらしめよ彼等はわが汝の兄弟アブサロ  
 ムの面を避て逃し時我に就たるなり八視よ又バホルムのベニヤ  
 ミン人ゲラの子シメイ汝とともに在り彼はわがマナハイムに  
 往し時勵しき謔言をもて我を詔へり然ども彼ヨルダンに下り  
 て我を迎へたれば我エホバを指て誓ひて我劍をもて汝を殺さ  
 じといへり九然りとはいへども彼を辜なき者とする勿れ汝は智慧  
 ある人なれば彼に爲べき事を知るなり血を流して其白髪を墓に  
 下すべしと一〇斯てダビデは其父祖と偕に寝りてダビデの城に  
 葬らる二ダビデのイスラエルに王たりし日は四十年なりき即  
 ちヘブロンにて王たりし事七年エルサレムにて王たりし事三十  
 三年三ソロモン其父ダビデの位に坐し其國は堅固く定まりぬ一  
 三爰にハギテの子アドニヤ、ソロモンの母バテシバの所に來り  
 ければバテシバいひけるは汝は平穩なる事のために來るや彼い  
 ふ平穩たる事のためなり四彼又いふ我は汝に言さんとする事  
 ありとバテシバいふ言されよ五かれいひけるは汝の知ごとく  
 國は我の有にしてイスラエル皆其面を我に向て王となさんと爲  
 りしかるに國は轉てわが兄弟の有となれり其彼の有となれる  
 はエホバより出たるなり六今我一の願を汝に求む請ふわが面  
 を黜くるなかれバテシバかれにいひけるは言されよ七彼いひ

けるは請ふソロモン王に言て彼をしてシエナミ人アビシヤグを我に與て妻となさしめよ彼は汝の面を黜けざるべければなりハバテシバいふ善し我汝のために王に言んとニ九かくてバテシバ、アドニヤのために言とてソロモン王の許に至りければ王起てかれを迎へ彼を拜して其位に坐なほり王母のために座を設けしむ乃ち其右に坐せりニ〇しかしてバテシバいひけるは我一の細小き願を汝に求むわが面を黜くるなかれ王かれにいひけるは母上よ求めたまへ我汝の面を黜けざるなりニ彼いひけるは請ふシユナミ人アビシヤグをアドニヤに與て妻となさしめよニソロモン王答て其母にいひけるは何ぞアドニヤのためにシユナミ人アビシヤグを求めらるや彼のために國をも求められよ彼は我の兄なればなり彼と祭司アビヤタルとゼルヤの子ヨアブのために求められよとニソロモン王乃ちエホバを指て誓ひていふ神我に斯なし又重ねて斯なしたまへアドニヤは其身の生命を喪はんとて此言を言いだせりニ四我を立てわが父ダビデの位に上しめ其約せしごとく我に家を建たまひしエホバは生くアドニヤは今日戮さるべしとニ五ソロモン王エホヤダの子ベナヤを遣はしければ彼アドニヤを撃て死しめたりニ六王また祭司アビヤタルにいひけるは汝の故田アナトテにいたれ汝は死に當る者なれども嚮にわが父ダビデのまへに神エホバの櫃を昇き又凡てわが父の艱難を受たる處にて汝も艱難を受たれば我今日は汝を戮さじとニ七ソロモン、アビヤタルを逐いだしてエホバの祭司た

らしめざりき斯エホバがシロにてエリの家につきて言たまひし言應たりニ八爰に其風聞ヨアブに達りければヨアブ、エホバの幕屋に遁れて壇の角を執たり其はヨアブは轉てアブサロムには隨はざりしかどもアドニヤに隨ひたればなりニ九ヨアブがエホバの幕屋に遁れて壇の傍に居ることソロモンに聞えければソロモン、エホヤダの子ベナヤを遣はしむけるは往て彼を撃てとニ〇ベナヤ乃ちエホバの幕屋にいたり彼にいひけるは王斯言ふ出来れ彼いひけるは否我は此に死んとベナヤ反て王に告てヨアブ斯言ひ斯我に答へたりと言ふニ一王ベナヤにいひけるは彼が言ふごとく爲し彼を撃て葬りヨアブが故なくして流したる血を我とわが父の家より除去べしニ又エホバはヨアブの血を其身の首に歸したまふべし其は彼は己よりも義く且善りし二人人を撃ち劍をもてこれを殺したればなり即ちイスラエルの軍の長ネルの子アブネルとユダの軍の長エテルの子アマサを殺せり然るに吾父ダビデは與り知ざりきニ三されば彼等の血は長久にヨアブの首と其苗裔の首に販すべし然どダビデと其苗裔と其家と其位にはエホバよりの平安永久にあるべしニ四エホヤダの子ベナヤすなはち上りて彼を撃ち彼を殺せり彼は野にある己の家に葬らるニ五王乃ちエホヤダの子ベナヤをヨアブに代て軍の長となせり王また祭司ザドクをしてアビヤタルに代しめたりニ六又王人を遣てシメイを召て之に曰けるはエルサレムに於て汝の爲に家を建て其處に住み其處より此にも彼にも出るなかれニ七

汝が出てキデロン川を濟る日には汝確に知れ汝必ず戮さるべし汝の血は汝の首に歸せんハシメイ王にいひけるは此言は善し王が主の言たまへることく僕然なすべしと斯シメイ日久しくエルサレムに住り三九年の後シメイの二人の僕ガテの王マアカの子アキシの所に逃されり人々シメイに告ていふ視よ汝の僕はガテにありと四〇シメイ乃ち起て其驢馬に鞍置きガテに往てアキシに至り其僕を尋ねたり即ちシメイ往て其僕をガテより携來りしが四一シメイのエルサレムよりガテにゆきて歸しことソロモンに聞えければ四二王人を遣てシメイを召て之にいひけるは我汝をしてエホバを指て誓しめ且汝を戒めて汝確に知れ汝が出て此彼に歩く日には汝必ず戮さるべしと言しにあらざるや又汝は我に我聞る言葉は善しといへり四三しかるに汝なんぞエホバの誓とわが汝に命じたる命令を守ざりしや四四王又シメイにいひけるは汝は凡て汝の心の知る諸の惡即ち汝がわが父ダビデに爲たる所を知るエホバ汝の惡を汝の首に歸したまふ四五されどソロモン王は福祉を蒙らんまたダビデの位は永久にエホバのまへに固く立べしと四六王エホヤダの子ベナヤに命じければ彼出てシメイを撃ちて死しめたりしかして國はソロモンの手に固く立り

第三章一ソロモン、エジプトの王パロと縁を結びパロの女を娶て之を携來り自己の家とエホバの家とエルサレムの周圍の石垣を建築ことを終るまでダビデの城に置り二當時までエホバの名

のために建たる家なかりければ民は崇邱にて祭を爲り三ソロモン、エホバを愛し其父ダビデの法憲に歩めり但し彼は崇邱にて祭を爲し香を焚り四爰に王ギベオンに往て其處に祭を爲んとせり其は彼處は大なる崇邱なればなり即ちソロモン一千の燔祭を其壇に獻たり五ギベオンにてエホバ夜の夢にソロモンに顯れたまへり神いひたまひけるは我何を汝に與ふべきか汝求めよ六ソロモンいひけるは汝は汝の僕わが父ダビデが誠實と公義と正心を以て汝と共に汝の前に歩みしに因て大なる恩恵を彼に示したまへり又汝彼のために此大なる恩恵を存て今日のごとくかれの位に坐する子を彼に賜へり七わが神エホバ汝は僕をして我父ダビデに代て王とならしめたまへり而るに我は小き子にして出入することを知らず八且僕は汝の選みたまひし汝の民の中にあり即ち大なる民にて其數衆くして數ふることも書すことも能はざる者なり九是故に聽き別る心を僕に與へて汝の民を鞫しめ我をして善惡を辨別することを得さしめたまへ誰か汝の此夥多き民を鞫くことを得んと一〇ソロモン此事を求めければ其言主の心にならざり一是において神かれにいひたまひけるは汝此事を求めて己の爲に長壽を求めず又己のために富有を求めず又己の敵の生命をも求めずして惟訟を聽き別る才智を求めたるに因て二視よ我汝の言に循ひて爲り我汝に賢明く聡慧き心と與ふれば汝の先には汝の如き者なく汝の後に汝の如き者興らざるべし三我亦汝の求めざる者即ち富と貴とをも

汝に與ふれば汝の生の涯王等の中に汝の如き者あらざるべし  
 四 又汝若汝の父ダビデの歩し如く吾道に歩みてわが法憲と  
 命令を守らば我汝の日を長うせんと二五 ソロモン目窟て視るに  
 夢なりき斯てソロモン、エルサレムに至りエホバの契約の櫃の  
 前に立ち燔祭を獻げ酬恩祭を爲して其のすべて其の僕に饗宴を爲り  
 六 爰に娼妓なる二人の婦王の所に來りて其前に立ちしが一七  
 一人の婦いひけるはわが主よ我と此婦は一の家に住む我此婦  
 と偕に家にありて子を生子りハしかるにわが生し後第三日に此  
 婦もまた生子りしかして我偕にありき家には他人の我らと偕  
 に居りし者なし家には只我二人のみ九 然るに此婦其子の上  
 に臥たるによりて夜の中に其子死たれば二〇 中夜に起て婢の眠  
 れる間にわが子をわれの側より取りて之を己の懷に臥しめ己の  
 死たる子をわが懷に臥しめたり二 朝に及びて我わが子に乳を  
 飲せんとて興て見るに死むたり我朝にいたりて其を熟く視たる  
 に其はわが生るわが子にはあらざりしと三 今一人の婦いふ否  
 活るはわが子死るは汝の子なりと此婦いふ否死るは汝の子活  
 るはわが子なりと彼等斯王のまへに論り三 時に王いひけるは  
 一人は此活るはわが子死るは汝の子なりと言ひ又一人は否死  
 るは汝の子活るはわが子なりといふと四 王乃ち劍を我に持來れ  
 といひければ劍を王の前に持來れり五 王いひけるは活る子を  
 二分て其半を此に半を彼に與へよと六 時に其活子の母な  
 る婦人心其子のために焚がごとくなりて王に言していひける

は請ふわが主よ活る子を彼に與へたまへ必ず殺したまふなけれ  
 と然ども他の一人は是を我のにも汝のにもならしめず判たせよ  
 と言り七 王答ていひけるは活子を彼に與へよ必ず殺すなけれ  
 彼は其母なるなりと八 イスラエル皆王の審理し所の判決を聞  
 て王を畏れたり其は神の智慧の彼の中にありて審理を爲しむる  
 を見たればなり  
 第四章 ソロモン王はイスラエルの全地に王たり二 其有る群卿  
 は左の如しザドクの子アザリヤは相國三 シシャの子エリホレフ  
 とアヒヤは書記官アヒルデの子ヨシヤパテは史官四 エホヤダ  
 の子ベナヤは軍の長ザドクとアヒヤタルは祭司五 ナタンの子ア  
 ザリヤは代官の長ナタンの子ザブデは大臣にして王の友たり六  
 アヒシャルは宮内卿アブダの子アドニラムは徵募長なり七 ソ  
 ロモン又イスラエルの全地に十二の代官を置り其人々王と其  
 家のために食物を備へたり即ち各一年に一月宛食物を備へた  
 り八 其名左のごとしエフライムの山地にはベンホル九 マカツと  
 シヤラビムとベテシメシとエロンベテハナンにはベンテケル一〇  
 アルポテにはベンヘセテありシヨコとヘベルの全地とは彼擔任  
 り二 ドルの高地の全部にはベンアヒナダブあり彼はソロモン  
 の女タパテを妻とせりニ アルヒデの子バアナはタアナクとメ  
 ギドとエズレルの下にザルタナの邊にあるベテシヤンの全地と  
 を擔任てベテシヤンよりアベルメホラにいたりヨクネアムの外  
 にまで及ぶ三 キレアデのラモテにはベンゲベルあり彼はギレ

アデにあるマナセの子ヤイルの諸村を擔任ち又バシヤンなるアルゴブの地にある石垣と銅の關を有る大なる城六十を擔任り二四イドの子アヒナダブはマハナイムを擔任り二五ナフタリにはアヒマズあり彼もソロモンの女バスマテを妻に娶れり二六アセルとアロテにはホシヤイの子バアナあり二七イツサカルにはパルアの子ヨシヤパテあり二八ベニヤミンにはエラの子シメイあり二九アモリ人の王シホンの地およびバシヤンの王オグの地なるギレアデの地にはウリの子ゲベルあり其地にありし代官は唯彼一人のみ三〇ユダとイスラエルの人は多くして濱の沙の多きがごとくなりしが飲食して樂めり三一ソロモンは河よりペリシテ人の地にいたるまでとエジプトの境に及ぶまでの諸國を治めたれば皆禮物を餽りてソロモンの一生の間事へたり三二倍ソロモンの一日の食物は細麵三十石粗麵六十石三肥牛十牧場の牛二十羊一百其外に牡鹿羚羊小鹿および肥たる禽あり三四其はソロモン河の此方をテフサよりガザまで盡く治めたればなり即ち河の此方の諸王を悉く統治たり彼は四方の臣僕より平安を得たりき三五ソロモンの一生の間ユダとイスラエルはダンよりベエルシバに至るまで安然に各其葡萄樹の下と無花果樹の下に住り三六ソロモン戰車の馬の厩四千騎兵一萬二千を有り三七彼代官等各其月にソロモン王のためおよび總てソロモン王の席に来る者の爲に食を備へて缺るところなからしめたり三八又彼等各其職に循ひて馬および疾足の馬に食す

大麥と菟蕪を其馬の在る處に携へ來れり二九神ソロモンに智慧と聰明を甚だ多く賜ひ又廣大き心を賜ふ海濱の沙のごとし三〇ソロモンの智慧は東洋の人々の智慧とエジプトの諸の智慧よりも大なりき三一彼は凡の人よりも賢くエズラ人エタンよりも又マルの子なるヘマンとカルコルおよびダルダよりも賢くして其名四方の諸國に聞えたり三二彼箴言三千を説り又其詩歌は一千五百あり三三彼又草木の事を論じてレバノンの香柏より墻に生る苔に迄及べり彼亦獸と鳥と匍行物と魚の事を論じたり三四諸の國の人々ソロモンの智慧を聽んとて來り天下の諸の王ソロモンの智慧を聞及びて人を遣はせり

第五章 ツロの王ヒラム、ソロモンの膏そそがれて其父にかはりて王となりしを聞て其臣僕をソロモンに遣せりヒラムは恒にダビデを愛したる者なりければなり二是に於てソロモン、ヒラムに言遣はしけるは三汝の知ごとく我父ダビデは其周圍にありし戰爭に因て其神エホバの名のために家を建ること能はずしてエホバが彼等を其足の跣の下に置またふを待り四然るに今わが神エホバ我に四方の太平を賜ひて敵もなく殃もなければ五我はエホバのわが父ダビデに語てわが汝の代に汝の位に上しむる汝の子其人はわが名のために家を建べしと言たまひしに循ひてわが神エホバの名のために家を建んとす六されば汝命じてわがためにレバノンより香柏を砍出さしめよわが僕汝の僕と共にあるべし又我は凡て汝の言ふごとく汝の僕の賃銀を汝に付すべし

其は汝の知ごとく我儕の中にはシドン人の如く木を砍に巧みなる人なければなりとセヒラム、ソロモンの言を聞て大に喜び言けるは今日エホバに稱譽あれエホバ、ダビデに此夥多しき民を治むる賢き子を與たまへりとハかくてヒラム、ソロモンに言遣りけるは我汝が言ひ遣したる所の事を聽り我香柏の材木と松樹の材木とに付ては凡て汝の望むごとく爲すべし九わが僕レバノンより海に持下らんしかして我これを海より桴にくみて汝が我に言ひ遣す處におくり其處にて之をくづすべし汝之を受よ又汝はわが家のために食物を與へてわが望を成せと。斯てヒラムはソロモンに其凡て望むごとく香柏の材木と松の材木を與へたり。又ソロモンはヒラムに其家の食物として小麦二萬石を與へまた清油二十石をあたへたり。斯ソロモン年々ヒラムに與へたり。ニエホバ其言たまひしごとくソロモンに智慧を賜へり。またヒラムとソロモンの間睦しくして二人偕に契約を結べり。ニ愛にソロモン王イスラエルの全地に徵募人を興せり。其徵募人の數は三萬人なり。四ソロモンかれらを一月交代に一萬人づつレバノンに遣せり。即ち彼等は二月レバノンに二月家にありアドニラムは徵募人の督者なり。き五ソロモン負載者七萬人山に於て石を砍る者八萬人あり。六外に又其工事の長なる官吏三千三百人ありて工事に作く民を統たり。七かくて王命じて大なる石貴き石を鑿出さしめ琢石を以て家の基礎を築かしむ。一八ソロモンの建築者とヒラムの建築者およびゲバル人之を

砍り。斯彼等材木と石を家を建るに備へたり。第六章。イスラエルの子孫のエジプトの地を出たる後四百八十年ソロモンのイスラエルに王たる第四年ジフの月。即ち二月にソロモン、エホバのために家を建ることを始めたり。ニソロモン王のエホバの爲に建たる家は長六十キユビト。潤二十キユビト。高三十キユビトなり。三家の拝殿の廊は家の潤に循ひて長二十キユビト。家の前の其潤十キユビトなり。四彼家に造り附の格子ある窓を施たり。五又家の牆壁に附て四周に連接屋を建て家の牆壁。即ち拝殿と神殿の牆壁の周圍に環らせり。又四周に旁房を造れり。六下層の連接屋は潤五キユビト。中層は潤六キユビト。を第三層のは潤七キユビトなり。即ち家の外に階級を造り環らして何者をも家の牆壁に挿入せらしむ。七家は建る時に鑿石所にて鑿り預備たる石にて造りたれば造れる間に家の中には錠も鑿も其外の鐵器も聞えざり。き八中層の旁房の戸は家の右の方にあり。螺旋梯より中層の房にのぼり。中層の房より第三層の房にいたるべし。九斯彼家を建終り。香柏の椽と板をもて家を葺り。一〇又家に附て五キユビトの高たる連接屋を建環し。香柏をもて家に交接たり。ニ愛にエホバの言ソロモンに臨みて曰く。三汝今此家を建つ。若し汝わが法憲に歩みわが律例を行ひわが諸の誠命を守りて之にしたがひて歩まば。わは汝の父ダビデに言し語を汝に固うすべし。三我イスラエルの子孫の中に住わが民イスラエルを棄ざるべし。四斯ソロモン家を建終れり。五彼香柏の板

を以て家の牆壁の裏面を作れり即ち家の牀板より頂格の牆壁まで木をもて其裏面をはりまた松の板をもて家の牀板をはり一六又家の奥に二十キユビトの室を牀板より牆壁まで香柏をもて造れり即ち家の内に至聖所なる神殿を造れり一七家即ち前にある拝殿は四十キユビトなり一八家の内の香柏は瓠と咲る花を彫刻める者なり皆香柏にして石は見えざりき一九神殿は彼其處にエホバの契約の櫃を置んとて家の内の中に設けたり二〇神殿の内は長二十キユビト濶二十キユビト高二十キユビトなり純金をもて之を蔽ひ又香柏の壇を覆へり二一又ソロモン純金をもて家の内を蔽ひ神殿の前に金の鏈をもて間隔を造り金をもて之を蔽へり二三又金をもて残るところなく家を蔽ひ遂に家を飾ることを悉く終たりまた神殿の傍にある壇は皆金をもて蔽へり二三神殿の内に橄欖の木をもて二のケルビムを造れり其高十キユビト二四其ケルプの一の翼は五キユビト又其ケルプの他の翼も五キユビトなり二の翼の末より他の翼の末までは十キユビトあり二五他のケルプも十キユビトなり其ケルビムは偕に同量同形なり二六此ケルプの高十キユビト彼ケルプも亦しかり二七ソロモン家の内の中にケルビムを置多ケルビムの翼を展しければ此ケルプの翼は此牆壁に及び彼ケルプの翼は彼の牆壁に及びて其兩翼家の中に相接れり二八彼金をもてケルビムを蔽へり二九家の周圍の牆壁には皆内外ともにケルビムと棕櫚と咲る花の形を雕み三〇家の牀板には内外ともに金を蔽へり三一神殿

の入口には橄欖の木の戸を造れり其木匠の門柱は五分の一なり三一其二の扉も亦橄欖の木なりソロモン其上にケルビムと棕櫚と咲る花の形を彫刻み金をもて蔽へり即ちケルビムと棕櫚の上に金を鍍たり三三斯ソロモン亦拝殿の戸のために橄欖の木の門柱を造れり即ち四分の一なり三四其二の戸は松の木にして此戸の兩扉は摺むべく彼戸の兩扉も摺むべし三五ソロモン其上にケルビムと棕櫚と咲る花を彫刻み金をもてこれを蔽ひて善く其雕工に適はしむ三六また鑿石三層と香柏の厚板一層をもて内庭を造れり三七第四年のジフの月にエホバの家の基礎を築き三八第十一年のブルの月即ち八月に凡て其箇條のごとく其定例のごとくに家成りぬ斯ソロモン之に建るに七年を渉れり第七章一ソロモン己の家を建しが十三年を経て全く其家を建終たり二彼レバノン森の家を建たり其長は百キユビト其濶は五十キユビト其高は三十キユビトなり香柏の柱四行ありて柱の上に香柏の梁あり三四五本の柱の上なる梁の上は香柏にて蓋へり柱は一行に十五本あり四また窓三行ありて牖と牖と三段に相對ふ五戸と戸柱は皆大木をもて角に造り牖と牖と三段に相對へり六又柱の廊を造れり其長五十キユビト其濶三十キユビトなり柱のまへに二の廊ありまた其柱のまへに柱と階あり七又ソロモン審判を爲すために位の廊即ち審判の廊を造り牀板より牀板まで香柏をもて蔽へり八ソロモンの居住る家は其廊の後の他の庭にありて其工作同じかりきソロモン亦其娶りたる巴口の

女のために家を建しが此廊に同じかりき九是等は内外とも基礎より檐にいたるまで又外面にては大庭にいたるまで皆鑿石の量にしたがひて鋸にて割たる貴き石をもて造れるものなり二〇又基礎は貴き石大なる石即ち十キユビトの石八キユビトの石なり二 其上には鑿石の量に循ひて貴き石と香柏あり三又大庭の周圍に三層の鑿石と一層の香柏の厚板ありエホバの家の内庭と家の廊におけるが如し三爰にソロモン人を遣はしてヒラムをソロより召び來れり四 彼はナフタリの支派なる贅婦の子にして其父はソロの人にて銅の細工人なりヒラムは銅の諸の細工を爲すの智慧と慧悟と知識の充ちたる者なりしがソロモン王の所に來りて其諸の細工を爲り五 彼銅の柱二を鑄たり其高 各 十八キユビトにして各十二キユビトの繩を環らすべし 一六 又銅を鑄して柱 頭を鑄て柱の顛に置ゆ此の頭の高も五キユビト彼の頭の高も五キユビトなり一七 柱の上にある頭の爲に組物の網と鏈様の棧物を造れり此頭に七つ彼頭に七つあり一八 又二行の石榴を一の網工の上の四周に造りて柱の上にある頭を蓋ふ他の頭をも亦然せり一九 柱の上にある頭は四キユビトの百合花の形にして廊におけるがごとし二〇 一の柱の頭の上には亦網工の外なる腹の所に接きて石榴あり他の柱の四周にも石榴二百ありて相列べり二 此柱を拝殿の廊に繋つ即ち右の柱を立て其名をヤキンと名け左の柱を豎て其名をボアズと名く三 其柱の上に百合花の形あり斯其柱の作成り三 又海を鑄なせり此

邊より彼邊まで十キユビトにして其四周圍く其高五キユビトなり其四周は三十キユビトの繩を環らすべし二四 其邊の下には四周に鞆瓜ありて之を環れり即ち一キユビトに十つつありて海の周圍を圍り其鞆瓜は海を鑄たる時に二行に鑄たるなり二五 其海は十二の牛の上に立り其三は北に向ひ三は西に向ひ三は南に向ひ三は東に向ひ海其上にありて牛の後は皆内に向ふ二六 海の厚は手眞にして其邊は百合花にて杯の邊の如くに作り海は二千斗を容たり二七 又銅の臺十を造れり一の臺の長四キユビト其潤四キユビト其高三キユビトなり二八 其臺の製作は左のごとし臺には嵌板あり嵌板は邊の中にあり二九 邊の中にある嵌板の上に獅子と牛とケルビムあり又邊の上に座あり獅子と牛の下に花飾の垂下物あり三〇 其臺には各四の銅の輪と銅の軸あり其四の足には肩のごとき者あり其肩のごとき者は洗盤の下にありて凡の花飾の旁に鑄つけたり三一 其口は頭の内より上は一キユビトなり其口は圓く一キユビト半にして座の作の如し又其口には雕工あり其鏡板は四角にして圓からず三二 四の輪は鏡板の下にあり輪の手は臺の中にあり輪は各 高一キユビト半三三 輪の工作は戰車の輪の工作の如し其手と縁と輻と轂とは皆鑄物なり三三 臺の四隅に四の肩の如き者あり其肩のごときは臺より出づ三五 臺の上の所の高半キユビトは其周圍圍く又臺の上の所の手と鏡板も臺より出づ三六 其手の板と鏡板には其各の隙處に循ひてケルビムと獅子と棕櫚を雕刻み又其四周に花飾

を造れり三七是のこつく十の臺を造れり其鑄法と量と形は皆同じ三八又銅の洗盤十を造れり洗盤は各四十斗を容れ洗盤は各四キユビトなり十の臺の上には各一の洗盤あり三九其臺五を家の右の旁に五を家の左の旁に置る家の右の東南に其海を置り四〇ヒラム又鍋と火鏝と鉢とを造れり斯ヒラム、エホバの家の爲にソロモン王に爲る諸の細工を成終たり四一即ち二の往と其柱の上なる頭の二の柱と柱の上なる其頭の二の柱を蓋ふ二の網工と四二其二の網工の爲の石榴四百は一の網工に石榴二行ありて柱の上なる二の柱を蓋ふ四三又十の臺と其臺の上の十の洗盤と四四一の海と其海の下十二の牛四五及び鍋と火鏝と鉢是也ヒラムがソロモン王にエホバの家のために造りし此等の器は皆光明ある銅なりき四六王ヨルダンの低地に於てスコテとザレタンの間の粘土の地にて之を鑄たり四七ソロモン其器甚だしく多かりければ皆權ずし措り其銅の重しれざりき四八又ソロモン、エホバの家の諸の器を造れり即ち金の壇と供前のパンを載る金の案四九および純金の燈臺は神殿のまへに五は右に五は左にあり又金の花と燈臺と燈鉗と五〇純金の盆と剪刀と鉢と皿と滅燈器と至聖所なる内の家の戸のため及び拝殿なる家の戸のためなる金の肘鈕是なり五一斯ソロモン王のエホバの家のために爲る諸の細工終れり是においてソロモン其父ダビデが奉納めたる物即ち金銀および器を携へいりてエホバの家の賣物の中に置り

第八章一爰にソロモン、エホバの契約の櫃をダビデの城即ちシオンより昇上らんとてイスラエルの長老と諸の支派の首イスラエルの子孫の家の長等をエルサレムにてソロモン王の所に召集むニスラエルの人皆エタニム月即ち七月の節筵に當てソロモン王の所に集まれりニスラエルの長老皆至り祭司櫃を執りあげて四エホバの櫃と集會の幕屋と幕屋にありし諸の聖器を昇上れり即ち祭司とレビの人之を昇のぼれり五ソロモン王および其許に集れるイスラエルの會衆皆彼と偕に櫃の前にありて羊と牛を獻げたりしが其數多くして書すことも數ふることも能はざりき六祭司エホバの契約の櫃を其處に昇いれたり即ち家の神殿なる至聖所の中のケルビムの翼の下に置めたり七ケルビムは翼を櫃の所に舒べ且ケルビム上より櫃と其棹を掩へり八杠長かりければ杠の末は神殿の前の聖所より見えたり然ども外には見えざりき其杠は今日まで彼處にあり九櫃の内には二の石牌の外何もあらざりき是はイスラエルの子孫のエジプトの地より出たる時エホバの彼等と契約を結たまへる時にモーセがホレブにて其處に置めたる者なり一〇斯て祭司聖所より出けるに雲エホバの家に盈たれば一祭司は雲のために立ち供事すること能はざりき其はエホバの榮光エホバの家に盈たればなり二是においてソロモンいひけるはエホバは濃き雲の中に居んといひたまへり三我誠に汝のために住むべき家永久に居べき所を建たりと四王其面を轉てイスラエルの凡の會衆を祝せり時に

イスラエルの會衆は皆立ぬたり二五 彼言けるはイスラエルの神  
 エホバは譬へきかなエホバは其口をもて吾父ダビデに言ひ其手  
 をもて之を成し遂げたまへり一六 即ち我は吾民イスラエルをエ  
 ジプトより導き出せし日より我名を置べき家を建しめんために  
 イスラエルの諸の支派の中より何れの城邑をも選みしことなし  
 但ダビデを選みてわが民イスラエルの上に立しめたりと言たま  
 へり一七 夫イスラエルの神エホバの名のために家を建ることは  
 わが父ダビデの心にあき二八 しかるにエホバわが父ダビデに  
 いひたまひけるはわが名のために家を建ること汝の心にあき汝  
 の心に此事あるは善し一九 然ども汝は其家を建べからず汝の腰  
 より出る汝の子其人吾名のために家を建べしと二〇 而してエホ  
 バ其言たまひし言を行ひたまへり即ち我わが父ダビデに代りて  
 立ちエホバの言たまひし如くイスラエルの位に坐しイスラエル  
 の神エホバの名のために家を建たり二 我又其處にエホバの  
 契約を蔵めたる櫃のために一の所を設けたり即ち我儕の父祖を  
 エジプトの地より導き出したまひし時に彼等に爲したまひし者  
 なりと三ソロモン、イスラエルの凡の會衆の前にてエホバの  
 壇のまへに立ち其手を天に舒て三 言けるはイスラエルの神エ  
 ホバよ上の天にも下の地にも汝の如き神なし汝は契約を持ちた  
 まひ心を全うして汝のまへに歩むところの汝の僕等に恩恵を  
 施したまふ二四 汝は汝の僕わが父ダビデに語たまへる所を持ち  
 たまへり汝は口をもて語ひ手をもて成し遂げたまへること今日の

ごとし三五 イスラエルの神エホバよ然ば汝が僕わが父ダビデに  
 語りて若し汝の子孫其道を慎みて汝わが前に歩めることくわ  
 が前に歩まばイスラエルの位に坐する人わがまへにて汝に缺る  
 こと無るべしといひたまひし事をダビデのために持ちたまへ二六  
 然ばイスラエルの神よ爾が僕わが父ダビデに言たまへる爾の言  
 に效驗あらしめたまへ二七 神果して地のの上に住たまふや視よ天  
 も諸の天の天も爾を容るに足す況て我が建たる此家をや二八 然  
 どもわが神エホバよ僕の祈禱と懇願を顧みて其號呼と僕が今日  
 爾のまへに祈る祈禱を聴たまへ二九 願くは爾の目を夜晝此家に  
 即ち爾が我名は彼處に在べしといひたまへる處に向ひて開きた  
 まへ願くは僕の此處に向ひて祈らん祈禱を聴たまへ三〇 願くは  
 僕と爾の民イスラエルが此處に向ひて祈る時に爾其懇願を聴  
 たまへ爾は爾の居處なる天において聴き聴て赦したまへ三一 若  
 し人其隣人に對ひて犯せることありて其人誓をもて誓ふこと  
 を要られんに來りて此家において爾の壇のまへに誓ひなば三二  
 爾天において聴て行ひ爾の僕等を鞫き惡き者を罪して其道を  
 其首に歸し義しき者を義として其義に循ひて之に報いたまへ  
 三三 若し爾の民イスラエル爾に罪を犯したるがために敵の前に敗  
 られんに爾に歸りて爾の名を崇め此家にて爾に祈り願ひなば三四  
 爾天において聴き爾の民イスラエルの罪を赦して彼等を爾が  
 其父祖に與へし地に歸らしめたまへ三五 若彼等が爾に罪を犯し  
 たるが爲に天閉て雨无らんに彼等若此處にむかひて祈り爾の

名を崇め爾が彼等を苦めたまふときに其罪を離れなば三六 爾天  
 において聽き爾の僕等爾の民イスラエルの罪を赦したまへ爾  
 彼等に其歩むべき善道を教へたまふ時は爾が爾の民に與へて  
 産業となさしめたまひし爾の地に雨を降したまへ三七 若國に  
 饑饉あるか若くは疫病枯朽腐蝕いばす蝗蟲あるか若くは其  
 敵國にいりて彼等を其門に圍むか如何なる災害如何なる病疾あ  
 るも三八 若一人か或は爾の民イスラエル皆各己の心の災を知  
 て此家に向ひて手を舒なば其人如何なる祈禱如何なる懇願を爲  
 とも三九 爾の居處なる天に於て聽て赦し行ひ各の人に其心を知  
 給ふ如く其道々にしたがひて報い給へ其は爾のみ凡の人の心を  
 知たまへばなり四〇 爾かく彼等をして爾が彼等の父祖に與へた  
 まへる地に居る日に常に爾を畏れしめたまへ四一 且又爾の民イ  
 スラエルの者にあらずして爾の名のために遠き國より來る  
 異邦人は四二 其は彼等爾の大なる名と強き手と伸たる腕を聞お  
 よぶべければなり 若來りて此家に向ひて祈らば四三 爾の  
 居處なる天に於て聽き凡て異邦人の爾に籲求むる如く爲たまへ  
 爾かく地の諸の民をして爾の名をしらしめ爾の民イスラエルの  
 ごとく爾を畏れしめ又我が建たる此家は爾の名をもて稱呼する  
 といふことを知しめ給へ四四 爾の民其敵と戦はんとて爾の遣は  
 したまふ所に出たる時彼等若爾が選みたまへる城とわが爾の  
 名のために建たる家の方に向ひてエホバに祈らば四五 爾天にお  
 いて彼等の祈禱と懇願を聽て彼等を助けたまへ四六 人は罪を犯

さざる者なければ彼等爾に罪を犯すことありて爾彼等を怒り  
 彼等を其敵に付し敵かれらを虜として遠近を諭す敵の地に引  
 ゆかん時は四七 若彼等虜れゆきし地において自ら顧みて悔い己  
 を虜へゆきし者の地にて爾に願ひて我儕罪を犯し悖れる事を爲  
 たり我儕惡を行ひたりと言ひ四八 己を虜ゆきし敵の地にて一心  
 一念に爾に歸り爾が其父祖に與へたまへる地爾が選みたまへ  
 る城とわが爾の名のために建たる家の方に向ひて爾に祈らば四九  
 爾の居處なる天において爾彼等の祈禱と懇願を聽てかれらを  
 助け五〇 爾の民の爾に對て犯したる事と爾に對て過てる其凡の  
 罪過を赦し彼等を虜ゆける者の前にて彼等に憐を得させ其人々  
 をして彼等を憐ましめたまへ五一 其は彼等は爾がエジプトより  
 即ち鐵の鑪の中よりいだしたまひし爾の民爾の産業なればな  
 り五一 願くは僕の祈禱と爾の民イスラエルの祈願に爾の目を開  
 きて凡て其爾に籲求むる所を聽たまへ五三 其は爾彼等を地の凡  
 の民の中より別ちて爾の産業となしたまへばなり神エホバ爾  
 が我儕の父祖をエジプトより導き出せし時モーセによりて言給  
 ひし如し五四 ソロモン此祈禱と祈願を悉くエホバに祈り終りし  
 時其天にむかひて手を舒べ膝を屈居たるを止てエホバの壇の  
 まへより起あがり五五 立て大なる聲にてイスラエルの凡の會衆  
 を祝して言けるは五六 エホバは譽べきかなエホバは凡て其言た  
 まひし如く其民イスラエルに太平を與へたまへり其僕モーセ  
 によりて言たまひし其善言は皆一も違はざりき五七 願くは

我儕の神エホバ我儕の父祖と偕に在せしごとく我儕とともに在せ我儕を離れたまふなかれ我儕を棄たまふなかれ五八 願くは我儕の心をおのれに傾けたまひて其凡の道に歩ましめ其我儕の父祖に命じたまひし誠命と法憲と律例を守らしめたまへ五九 願くはエホバの前にわが願ひ是等の言日夜われらの神エホバに近くあれ而してエホバ日々々の事に僕を助け其民イスラエルを助けたまへ六〇 斯して地の諸の民にエホバの神なること他に神なきことを知しめたまへ六一 されば爾等我儕の神エホバともにありて今日の如く爾らの心を完全しエホバの法憲に歩み其誠命を守るべしと六二 斯て王および王と偕にありしイスラエル皆エホバのまへに犠牲を献たり六三 ソロモン酬恩祭の犠牲を献げたり即ち之をエホバに献ぐ其牛二萬二千羊 十二萬なりき斯王とイスラエルの子孫皆エホバの家を開けり六四 其日に王エホバの家の前なる庭の中を聖別め其處にて燔祭と禴祭と酬恩祭の脂とを献げたり是はエホバの前なる銅の壇小くして燔祭と禴祭と酬恩祭の脂とを受けるにたらざりしが故なり六五 其時ソロモン七日に七日合て十四日我儕の神エホバのまへに節筵を爲りイスラエルの大なる會衆ハマテの入處よりエジプトの河にいたるまで悉く彼と偕にありき六六 第八日にソロモン民を歸せり民は王を祝しエホバが其僕ダビデと其民イスラエルに施したまひし諸の恩恵のために喜び且心に樂みて其天幕に往り第九章一 ソロモン、エホバの家と王の家を建る事を終へ且凡て

ソロモンが爲んと欲し望を遂し時ニエホバ再ソロモンに嘗てギベオンにて顯現たまひし如くあらはれたまひて三 彼に言たまひけるは我は爾が我まへに願ひ祈禱と祈願を聽たり我爾が建たる此家を聖別てわが名を永く其處に置べし且わが目とわが心は恒に其處にあるべし四 爾若爾の父ダビデの歩みし如く心を完つして正しく我前に歩みわが爾に命じたる如く凡て行ひてわが憲法と律例を守らば五 我は爾の父ダビデに告てイスラエルの位に上る人爾に缺ること無るべしと言しごとく爾のイスラエルに王たる位を固つすべし六 若爾等又は爾等の子孫全く轉きて我れにしたがはずわが爾等のまへに置たるわが誠命と法憲を守らずして往て他の神に事へ之を拜まば七 我イスラエルをわが與へたる地の面より絶ん又わが名のために我が聖別たる此家をば我わがまへより投げ棄んしかしてイスラエルは諸の民の中に諺語となり嘲笑となるべし八 且又此家は高くあれども其傍を過る者は皆之に驚き嘶きて言んエホバ何故に此地に此家に斯爲たまひしやと九 人答へて彼等は己の父祖をエジプトの地より導き出せし其神エホバを棄て他の神に附從ひ之を拜み之に事へしに因てエホバ此の凡の害惡を其上に降せるなりと言ん一〇 ソロモン二十年を経て二の家即ちエホバの家と王の家を建をはりヒウムにガリラヤの地の城邑二十を與へたり一 其はソロンの王ヒラムはソロモンに凡て其望に循ひて香柏と松の木と金を供給たればなり二三 ヒラム、ツロより出てソロモンが己に與へたる

諸邑を見しに其目に善らざりければ三我兄弟よ爾が我に與へたる此等の城邑は何なるやといひて之をカブルの地となづけたり其名今日までのこる二四管てヒラムは金百二十タラントを王に遣れり三五ソロモン王の徵募人を興せし事は是なり即ちエホバの家と自己の家とミロとエルサレムの石垣とハゾルとメギドンとゲゼルを建んが爲なりき二六エジプトの王パロ嘗て上りてゲゼルを取り火を以て之を熾き其邑に住るカナン人を殺し之をソロモンの妻なる其女に與へて粧奩と爲り七ソロモン、ゲゼルと下ベテホロンと二ハバアラと國の野にあるタデモル九及びソロモンの有てる府庫の諸邑其戰車の諸邑其騎兵の諸邑並にソロモンがエルサレム、レバノンおよび其凡の領地に於て建んと欲し者を盡く建たり三〇凡てイスラエルの子孫に非るアモリ人へテ人ペリジンヒビ人エブス人の遺存る者三其地に在て彼等の後に遺存る子孫即ちイスラエルの子孫の滅し盡すことを得ざりし者にソロモン奴隸の徵募を行ひて今日に至る三然どもイステエルの子孫をばソロモン一人も奴隸と爲ざりき其は彼等は軍人彼の臣僕牧伯大將たり戰車と騎兵の長たればなり三三ソロモンの工事を管理れる首なる官吏は五百五十人にして工事に働く民を治めたり三四爰にパロの女ダビデの城より上りてソロモンが彼のために建たる家に至る其時にソロモン、ミロを建たり三五ソロモン、エホバに築きたる壇の上に年に三次燔祭と酬恩祭を献げ又エホバの前なる壇に香を焚りソロモン斯

家を全うせり二六ソロモン王エドムの地紅海の濱に於てエラテの邊なるエジオンゲベルにて船數雙を造れり二七ヒラム海のことを知る舟人なる其僕をソロモンの僕と偕に其船にて遣せり二八彼等オフルに至り其處より金四百二十タラントを取てこれをソロモン王の所に携來る

第一〇章一シバの女王エホバの名に關るソロモンの風聞を聞き及び難問を以てソロモンを試みんとて來れり二彼甚だ多くの部從香物と甚だ多くの金と寶石を負ふ駱駝を從へてエルサレムに至る彼ソロモンの許に來り其心にある所を悉く之に言たるに三ソロモン彼に其凡の事を告たり王の知ずして彼に告ざる事無りき四シバの女王ソロモンの諸の智慧と其建たる家と五其席の食物と其臣僕の列坐る事と其侍臣の伺候および彼等の衣服と其酒人と其エホバの家に上る階級とを見て全く其氣を奪はれたり六彼王にいひけるは我が自己の國にて爾の行爲と爾の智慧に付て聞たる言は眞實なりき七然ど我來りて目に見るまでは其言を信ぜざりしが今視るに其半も我に聞えざりしなり爾の智慧と昌盛はわが聞たる風聞に越ゆ八常に爾の前に立て爾の智慧を聽く是等の人爾の臣僕は幸福なるかな九爾の神エホバは讃べきかなエホバ爾を悦び爾をイスラエルの位に上らせたまへりエホバ永久にイスラエルを愛したまふに因て爾を王となして公道と義を行はしめたまふなりと一〇彼乃ち金百二十タラント及び甚だ多くの香物と寶石とを王に饋れりシバの女王の

ソロモン王に饋りたるが如き多くの香物は重て至ざりき一オフルより金を載來りたるヒラムの船は亦オフルより多くの白檀木と寶石とを運び來りければ三王白檀木を以てエホバの家と王の家とに欄干を造り歌謡者のために琴と瑟を造れり是の如き白檀木は至らざりき亦今日までも見たることなし三ソロモン王の例に循ひてシバの女王に物を饋りたる外に又彼が望に任せて凡て其求むる物を饋れり斯て彼其臣僕等とともに歸りて其國に往り一四倍一年にソロモンの所に至れる金の重量は六百六十六タラントなり一五外に又商賈および商旅の交易並にアラビヤの王等と國の知事等よりも至れり一六ソロモン王展金の大楯二百を造れり其大楯には各六百シケルの金を用ひたり一七又展金の千三百を造れり一の千に三斤の金を用ひたり王是等をレバノン森林の家に置り一八王又象牙をもて大なる寶座を造り純金を以て之を蔽へり一九其寶座に六の階級あり寶座の後に圓き頭あり坐する處の兩旁に扶手ありて扶手の側に二の獅子立てり〇又其六の階級に十二の獅子此旁彼旁に立り是の如き者を作れる國はあらざりき二三ソロモン王の用ひて飲る器は皆金なり又レバノン森林の家の器も皆純金にして銀の物無りき銀はソロモンの世には貴まざりしなり三其は王海にタルシシの船を有てヒラムの船と供にあらしめタルシシの船をして三年に一度金銀象牙猿猴および孔雀を載て來らしめたるればなり二三抑ソロモン王は富有と智慧に於て天下の諸の王

よりも大なりければ一四天下皆神がソロモンの心に授けたまへる智慧を聽んとてソロモンの面を見んことを求めたり二五人々各其禮物を携へ來る即ち銀の器金の器衣服甲冑香物馬騾每歲定分ありき二六ソロモン戰車と騎兵を集めたるに戰車千四百輛騎兵壹萬二千ありきソロモン之を戰車の城邑に置き或はエルサレムにて王の所に置り三七王エルサレムに於て銀を石の如くに爲し香柏を平地の桑樹の如くに爲して多く用ひたり二八ソロモンの馬を獲たるはエジプトとコアよりなり即ち王の商賈コアより價值を以て取り二九エジプトより上り出る戰車一輛は銀六百にして馬は百五十なりき斯のごとくへて人の凡の王等およびスリアの王等のために其手をもて取出せり第一章一ソロモン王パロの女の外に多の外國の婦を寵愛せり即ちモアブ人アンモン人エドミ人シドン人へて人の婦を寵愛せり二エホバ曾て是等の國民についてイスラエルの子孫に言たまひけらく爾等は彼等と交るべからず彼等も亦爾等と交るべからず彼等必ず爾等の心を轉して離れざりき三彼妃公主七百人かるにソロモン彼等を愛して離れざりき四ソロモンの年老たる嬪三百人あり其妃等彼の心を轉せり五ソロモンの年老たる時妃等其心を轉移して他の神に従はしめければ彼の心其父ダビデの心の如く其神エホバに全からざりき五其はソロモン、シドン人の神アシタロテに従ひアンモン二人の惡むべき者なるモロクに從ひたればなり六ソロモン斯エホバの目のまへに惡を行ひ

其父ダビデの如く全くはエホバに従はざりき七 爰にソロモン、モアブの憎むべき者なるケモシの爲又アンモンの子孫の憎むべき者なるモロクのためにエルサレムの前なる山に崇邱を築けり八 彼又其異邦の凡の妃の爲にも然せしかば彼等は香を焚て己々の神を祭れり九 ソロモンの心轉りてイスラエルの神エホバを離れしによりてエホバ彼を怒りたまふエホバ嘗て兩次彼に顯れ一〇 此事に付て彼に他の神に従ふべからずと命じたまひけるに彼エホバの命じたまひし事を守らざりしなり一 一 エホバ、ソロモンに言たまひけるは此事爾にありしに因り又汝わが契約とわが爾に命じたる法憲を守らざりしに因て我必ず爾より國を裂きはなして之を爲ざるべし我爾の子の手より之を裂きはなさん二 但し我は國を盡くは裂きはなさずしてわが僕ダビデのために又わが選みたるエルサレムのために一の支派を爾の子に與へんと四 是に於てエホバ、エドミ人ハダデを興してソロモンの敵と爲したまふ彼はエドム王の裔なり五 曩にダビデ、エドムに事ありし時軍の長ヨアブ上りて其戰死せし者を葬りエドムの男を盡く撃殺しける時に方りて一六 ヨアブはエドムの男を盡く絶までイスラエルの群衆と偕に六月其處に止れり一七 ハダデ其父の僕なる數人のエドミ人と共に逃てエジプトに往んとせり時にハダデは尙小童子なりき一八 彼等ミデアンを起出てパランに至りパランより人を伴ひてエジプトに往きエジプトの王

パロに詣るにパロ彼に家を與へ食糧を定め且土地を與へたり一 九 ハダデ大にパロの心にかなひしかばパロ己の妻の妹即ち王妃タベネスの妹を彼に妻せり二〇 タベネスの妹彼に男子ゲヌバテを生ければタベネス之をパロの家の中にて乳離せしむゲヌバテ、パロの家にてパロの子の中にありき二一 ハダデ、エジプトに在てダビデの其先祖と偕に寝りたると軍の長ヨアブの死たるを聞しかばハダデ、パロに言けるは我を去しめてわが國に往しめよと三 パロ彼にいひけるは爾我とともにありて何の缺たる處ありてか爾の國に往ん事を求むる彼言ふ何も無し然どもねがはくは我を去しめよ去しめよ三 神父エリアダの子レゾンを興してソロモンの敵となせり彼は其主人ゾバの王ハダデゼルの許を逃さりたる者なり四 一四 ダビデがゾバの人を殺したる時に彼人を自己に集めて一隊の首領となりしが彼等ダマスコに往て彼處に住みダマスコを治めたり五 一五 ハダデが爲たる害の外にレゾン、ソロモンの一生の間イスラエルの敵となれり彼イステエルを惡みてスリアに王たりき一六 一六 ゼレダのエフラタ人ネバテの子ヤラベアムはソロモンの僕なりしが其母の名はゼルヤと曰て廢婦なりき彼も亦其手を擧て王に敵す一七 一七 彼が手を擧て王に敵せし故は此なりソロモン、ミロを築き其父ダビデの城の損缺を塞ぎ居たり一八 其人ヤラベアムは大なる能力ある者なりしかばソロモン此少者が事に勤むるを見て之を立てヨセフの家の凡の役を督どらしむ一 九 其頃ヤラベアム、エルサレムを出し時シ

口人なる預言者アヒヤ路にて彼に遭へり彼は新しき衣服を着たりしが彼等二人のみ野にありき○アヒヤ其著たる新しき衣服を執へて之を十二片に裂き三ヤラベアムに言けるは爾自ら十片を取れイスラエルの神エホバ所言たまふ視よ我國をソロモンの手より裂きはなして爾に十の支派を與へん三(但し彼はわが僕ダビデの故に因り又わがイスラエルの凡の支派の中より選みたる城エルサレムの故に因りて一の支派を有つべし)三其は彼等我を棄てシドン人の神アシタロテとモアブの神ケモシとアンモンの子孫の神モロクを拜み其父ダビデの如くわが道に歩てわが目に適ふ事わが法とわが律例を行はざればなり三然とも我は國を盡くは彼の手より取ざるべし我が選みたるわが僕ダビデわが命令とわが法憲を守りたるに因て我彼が爲にソロモンを一生の間主たらしむべし三五 然ど我其子の手より國を取て其十の支派を爾に與へん三六 其子には我一の支派を與へてわが僕ダビデをしてわが己の名を置んとてわがために擇みたる城エルサレムにてわが前に常に一の光明を有しめん三七 我爾を取ん爾は凡て爾の心の望む所を治めイスラエルの上に王となるべし三八 爾若わが爾に命する凡の事を聽て吾が道に歩むが目に適ふ事を爲しわが僕ダビデが爲し如く我が法憲と誠命を守らば我爾と偕にありてわがダビデのために建しことく爾のために鞏固き家を建てイスラエルを爾に與ふべし三九 我之がためにダビデの裔を苦めんされど永遠には非じと四〇 ン口

モン、ヤラベアムを殺さんと求めければヤラベアム起てエジプトに逃遁れエジプトの王シシャクに至りてソロモンの死ぬるまでエジプトに居たり四一 ソロモンの其餘の行爲と凡て彼が爲たる事および其智慧はソロモンの行爲の書に記さるるにあらずや四二 ソロモンのエルサレムにてイスラエルの全地を治めたる日は四十年なりき四三 ソロモン其父祖と偕に寝りて其父ダビデの城に葬らる其子レハベアム之に代りて王となれり 第一二章一爰にレハベアム、シケムに往り其はイスラエル皆彼を王と爲んとてシケムに至りたればなりニネバテの子ヤラベアム尚エジプトに在て聞りヤラベアムはソロモン王の面をさけて逃さりエジプトに住居たるなり三時に人衆人を遣はして彼を招けり斯てヤラベアムとイスラエルの會衆皆來りてレハベアムに告て言けるは四 汝の父我儕の軛を難くせり然ども爾今爾の父の難き役と爾の父の我儕に蒙らせたる重き軛を軽くせよ然ば我儕爾に事へん五レハベアム彼等に言けるは去て三日を経て再び我に來れと民乃ち去り六レハベアム王其父ソロモンの生る間其前に立たる老人等と計りていひけるは爾等如何に教へて此民に答へしむるや七彼等レハベアムに告て言けるは爾若今日此民の僕となり之に事へて之に答へ善き言を之に語らば彼等永く爾の僕となるべしと八 然に彼老人の教へし教を棄て自己と俱に生長て己のまへに立つ少年等と計れり九 即ち彼等に言けるは爾等何を教へて我儕をして此我に告て爾の父の我儕に蒙むらせ

し軛を軽くせよと言ふ民に答へしむるやと○彼と偕に生長たる少年彼に告ていひけるは爾に告て爾の父我儕の軛を重くしたれど爾これを我儕のために軽くせよと言たる此民に爾斯言べし我が小指はわが父の腰よりも太し一またわが父爾等に重き軛を負せたりしが我は更に爾等の軛を重くせん我父は鞭にて爾等を懲したれども我は蠅をもて爾等を懲んと爾斯彼等に告べしとニヤラベアムと民皆王の告て第三日に再び我に來れと言しごとく第三日にレハベアムに詣りしに三王荒々しく民に答へ老人の教へし教を棄て二四少年の教の如く彼等に告て言けるは我父は爾等の軛を重くしたりしが我は更に爾等の軛を重くせん我父は鞭を以て爾等を懲したれども我は蠅をもて爾等を懲さんと二五王斯民に聽ざりき此事はエホバより出たる者なり是はエホバその嘗てシロ人アヒヤに由てネバテの子ヤラベアムに告し言をおこなはんとて爲たまへるなり二六かくイスラエル皆王の己に聽ざるを見たり是において民王に答へて言けるは我儕ダビデの中に何の分あらんやエサイの子の中に産業なしイスラエルよ爾等の天幕に歸れダビデよ今爾の家を視よと而してイスラエルは其天幕に去りゆけり二七然れどもユダの諸邑に住るイスラエルの子孫の上にはレハベアム其王となれり一ハレハベアム王徵募頭なるアドラムを遣はしけるにイスラエル皆石にて彼を撃て死しめたればレハベアム王急ぎて其車に登りエルサレムに逃たり一九斯イスラエル、ダビデの家に背きて今日にいた

る二〇爰にイスラエル皆ヤラベアムの歸りしを聞て人を遣して彼を集會に招き彼をイスラエルの全家の上に王と爲りユダの支派の外はダビデの家に從ふ者なし三ソロモンの子レハベアム、エルサレムに至りてユダの全家とベニヤミンの支派の者即ち壯年の武夫十八萬を集む斯してレハベアム國を己に版さんがためにイスラエルの家と戰はんとせしが三神の言神の人シマヤに臨みて曰く三ソロモンの子ユダの王レハベアムおよびユダとベニヤミンの全家並に其餘の民に告て言べし二四エホバス言ふ爾等上るべからず爾等の兄弟なるイスラエルの子孫と戦ふべからず各人其家に歸れ此事は我より出たるなりと彼等エホバの言を聽きエホバの言に循ひて轉り去りぬ三五ヤラベアムはエフライムの山地にシケムを建て其處に住み又其所より出てペヌエルを建たり二六爰にヤラベアム其心に謂けるは國は今ダビデの家に歸らん二七若此民エルサレムにあるエホバの家に禮物を獻げんとて上らば此民の心ユダの王なる其主レハベアムに歸りて我を殺しユダの王レハベアムに歸らんと二八是に於て王計議て二の金の犢を造り人々に言けるは爾らのエルサレムに上ること既に足りイスラエルよ爾をエジプトの地より導き上りし汝の神を視よと二九而して彼一をベテルに安えしをダンに置り三〇此事罪となれりそは民ダンに迄往て其一の前に詣たればなり三一彼又崇邱の家を建てレビの子孫にあらざる凡民を祭司となせり三ニヤラベアム八月に節期を定めたり即ち其月の

十五日なりユダにある節期に等し而して壇の上に上りたりベテルにて彼斯爲し其作りたる犢に禮物を獻けたり又彼其造りたる崇邱の祭司をベテルに立たり三かく彼其ベテルに造れる壇の上に八月の十五日に上れり是は彼が己の心より造り出したる月なり而してイスラエルの人々のために節期を定め壇の上にほりて香を焚り

第一章一視よ爰に神の人エホバの言に由てユダよりベテルに來れり時にヤラベアムは壇の上に立ちて香を焚めたり二神の人乃ちエホバの言を以て壇に向ひて呼はり言けるは壇よ壇よエホバ斯言たまふ視よダビデの家にヨシアと名くる一人の子生るべし彼爾の上に香を焚く所の崇邱の祭司を爾の上に獻げん且人の骨爾の上に焼れんと三是日彼異蹟を示して言けるは是はエホバの言たまへる事の異蹟なり視よ壇は裂け其上にある灰は傾出んと四ヤラベアム王神の人がベテルにある壇に向ひて呼はりたる言を聞る時其手を壇より伸し彼を執へよと言けるが其彼に向ひて伸したる手枯て再び屈縮ることを得ざりき五しかして神の人がエホバの言を以て示したる異蹟の如く壇は裂け灰は壇より傾出たり六王答て神の人に言けるは請ふ爾の神エホバの面を和めわが爲に祈りてわが手を本に復しめよ神の人乃ちエホバの面を和めければ王の手に復りて前のごとくに成り七是において王神の人に言けるは我と與に家に來りて身を息めよ我爾に禮物を與へんと八神の人王に言けるは爾假令爾の家の半を我

に與ふるも我は爾とともに入じ又此所にてパンを食はず水を飲ざるべし九其はエホバの言我にパンを食ふなかれ水を飲なかれ又爾が往る途より歸るなかれと命じたればなりと一〇斯彼他途を往き自己がベテルに來れる途よりは歸らざりき一爰にベテルに一人の老たる預言者住めたりしが其子等來りて是日神の人がベテルにて爲たる諸事を彼に宣たり亦神の人の王に言たる言をも其父に宣たり二其父彼等に彼は何の途を往しやといふ

其子等ユダより來りし神の人の往たる途を見たらばなり三彼其子等に言けるは我ために驢馬に鞍おけと彼等驢馬に鞍おきければ彼之に乗り一四神の人の後に往きて橡の樹の下に坐するを見之にいひけるは汝はユダより來れる神の人なるか其人然りと云ふ一五彼其人にいひけるは我と偕に家に往てパンを食へ一六其人いふ我は汝と偕に歸る能はず汝と偕に入あたはず又我は此處にて爾と偕にパンを食はず水を飲し一七其はエホバの言我に爾彼處にてパンを食ふなかれ水を飲なかれ又爾が至れる所途より歸り往なかれと言たればなりと一八彼其人にいひけるは我も亦爾の如く預言者なるが天の使エホバの言を以て我に告て彼を爾と偕に爾の家に携かへり彼にパンを食はしめ水を飲しめよといへりとは其人を誂けるなり一九是において其人彼と偕に歸り其家にてパンを食ひ水を飲り二〇彼等が席に坐せし時エホバの言其人を携歸し預言者に臨みければ二彼ユダより來れる神の人の向ひて呼はり言けるはエホバ斯言たまふ爾エホバ

の口に違き爾の神エホバの爾に命じたまひし命令を守らずして  
 歸りニエホバの爾にパンを食ふなかれ水を飲なかれと言たま  
 ひし處にてパンを食ひ水を飲たれば爾の屍は爾の父祖の墓に至  
 らざるべしとニ其人のパンを食ひ水を飲し後彼其人のため即  
 ち己が携歸りたる預言者のために驢馬に鞍おけりニ四斯て其人  
 往けるが獅子途にて之に遇ひて之を殺せり而して其屍は途に  
 棄られ驢馬は其傍に立ち獅子も亦其屍の側に立りニ五人々々  
 經過て途に棄られたる屍と其屍の側に立る獅子を見て來り彼  
 老たる預言者の住る邑にて語れりニ六彼人を途より携歸りたる  
 預言者聞て言けるは其はエホバの口に違きたる神の人なりエホ  
 バの彼に言たまひし言の如くエホバ彼を獅子に付したまひて  
 獅子彼を裂き殺せりとニ七しかして其子等に語りて言けるは我  
 ために驢馬に鞍おけと彼等鞍おきければニ八彼往て其屍の途に  
 棄られ驢馬と獅子の其屍の傍に立るを見たり獅子は屍を食は  
 ず驢馬をも裂ざりきニ九預言者乃ち神の人の屍を取あげて之を  
 驢馬に載せて携歸れりしかして其老たる預言者邑に入り哀哭み  
 て之を葬れりニ〇即ち其屍を自己の墓に置め皆之がために  
 嗚呼わが兄弟よといひて哀哭りニ一人を葬りし後彼其子等に  
 語りて言けるは我が死たる時は神の人を葬りたる墓に我を葬り  
 わが骨を彼の骨の側に置めよニ其は彼がエホバの言を以てペ  
 テルにある壇にむかひ又サマリアの諸邑に在る崇邱の凡の家  
 に向ひて呼はりたる言は必ず成べければなりニ三斯事の後ヤラ

ベアム其惡き途を離れ歸ずして復凡の民を崇邱の祭司と爲り  
 即ち誰にても好む者は之を立てければ其人は崇邱の祭司と爲  
 りニ四此事ヤラベアムの家の罪戾となりて遂に之をして地の  
 表面より消失せ滅亡に至らしむ

第一四章一當時ヤラベアムの子アヒヤ疾めたりニヤラベアム其  
 妻に言けるは請ふ起て装を改へ人をして汝がヤラベアムの妻な  
 るを知しめずしてシロに往け彼處にわが此民の王となるべきを  
 我に告たる預言者アヒヤを三汝の手に十のパン及び菓子と一  
 瓶の蜜を取て彼の所に往け彼汝に此子の如何になるかを示す  
 べしと四ヤラベアムの妻是爲し起てシロに往きアヒヤの家に至  
 りしがアヒヤは年齢のために其目凝て見ることを得ざりき五  
 エホバ、アヒヤにいひたまひけるは視よヤラベアムの妻其子疾  
 るに因て其に付て汝に一の事を諮んとて來る汝斯々彼に言べ  
 し其は彼入り來る時其身を他の人とすべければなり六彼が戸の  
 所に入來れる時アヒヤ其履聲を聞て言けるはヤラベアムの妻入  
 よ汝何ぞ其身を他の人とするや我汝に嚴酷き事を告るを命ぜ  
 らる七往てヤラベアムに告べしイスラエルの神エホバ斯言たま  
 ふ我汝を民の中より擧げ我民イスラエルの上に汝を君となしハ  
 國をダビデの家より裂き離して之を汝に與へたるに汝は我僕  
 ダビデの我が命令を守りて一心に我に従ひ唯わが目に適ふ事  
 を爲しが如くならずして九汝の前に在る凡の者よりも惡を爲  
 し往て汝のために他の神と鑄たる像を造り我が怒を激し我を汝

の背後に棄たり一〇是故に視よ我ヤラバアムの家に災害を下し  
 ヤラバアムに屬する男はイスラエルにありて繫がれたる者も繫  
 がれざる者も盡く絶ち人の塵埃を残りなく除くがごとくヤラバ  
 アムの家の後を除くべし一ヤラバアムに屬する者の邑に死る  
 をば犬之を食ひ野に死ぬるをば天空の鳥之を食はんエホバ之を  
 語たまへばなり二爾起て爾の家に往け爾の足の邑に入る時子  
 は死ぬべし三而してイスラエル皆彼のために哀みて彼を葬ら  
 んヤラバアムに屬する者は唯是のみ墓に入るべし其はヤラバア  
 ムの家の中にて彼はイスラエルの神エホバに向ひて善き意を懷  
 けばなり四エホバ、イスラエル上一人の王を興さん彼其日に  
 ヤラバアムの家を斷絶べし但し何れの時なるか今即ち是なり一  
 五又エホバ、イスラエルを撃て水に搖撼ぐ葦の如くになしたま  
 ひイスラエルを其父祖に賜ひし此善地より抜き去りて之を河の  
 外に散したまはん彼等其アシラ像を造りてエホバの怒を激した  
 ればなり二エホバ、ヤラバアムの罪の爲にイスラエルを棄たま  
 ふべし彼は罪を犯し又イスラエルに罪を犯さしめたりとセヤ  
 ラバアムの妻起て去テルザに至りて家の闕に臻れる時は死り  
 一ハイスラエル皆彼を葬り彼の爲に哀めりエホバの其僕預言者  
 アヒヤによりて言たまへる言の如し九ヤラバアムの其餘の  
 行爲彼が如何に戦ひしか如何に世を治めしかは視よイスラエル  
 の王の歴代志の書に記載る一〇ヤラバアムの王たりし日は二十  
 二年なりき彼其父祖と偕に寝りて其子ナダブ之に代りて王とな

れりニソロモンの子レハベアムはユダに王たりきレハベアム  
 は王と成る時四十一歳なりしがエホバの其名を置んとてイスラ  
 エルの諸の支派の中より選みたまひし邑なるエルサレムにて十  
 七年王たりき其母の名はナアマといひてアンモ二人なり三ユ  
 ダ其父祖の爲たる諸の事に超てエホバの目の前に惡を爲し其犯  
 したる罪に由てエホバの震怒を激せり三其は彼等も諸の高山  
 の上と諸の青木の下に崇邱と碑とアシラ像を建たればなり四  
 其國には亦男色を行ふ者ありき彼等はエホバがイスラエルの  
 子孫の前より逐攘ひたまひし國民の中にありし諸の憎むべき事  
 を倣ひ行へり五レハベアム王の第五年にエジプトの王シシャ  
 ク、エルサレムに攻上り二六エホバの家の寶物と王の家の寶物を  
 奪ひたり即ち盡く之を奪ひ亦ソロモンの造りたる金の楯を皆奪  
 ひたり二七レハベアム王其代に銅の楯を造りて王の家の門を守  
 る侍衛の長の手に付せり二八王のエホバの家に入る毎に侍衛之  
 を負ひ復之を侍衛の房に携歸れり二九レハベアムの其餘の行爲  
 と其凡て爲たる事はユダの王の歴代志の書に記載るに非ずや  
 三〇レハベアムとヤラバアムの間に戰爭ありき三一レハベアム其  
 父祖と偕に寝りて其父祖と共にダビデの城に葬らる其母のナア  
 マといひてアンモ二人なり其子アビヤム之に代りて王と爲り  
 第一五章一ネバテの子ヤラバアム王の第十八年にアビヤム、ユ  
 ダの王となりニエルサレムにて三年世を治めたり其母の名はマ  
 アカといひてアブサロムの女なり三彼は其父が己のさきに爲た

諸の罪を行ひ其心其父ダビデの心の如く其神エホバに完全  
 からざりき四 然に其神エホバ、ダビデの爲にエルサレムに於て  
 彼に一の燈明を與へ其子を其後に興しエルサレムを固く立しめ  
 賜へり五 其はダビデはヘテ人ウリヤの事の外は一生活の間エホ  
 バの目に適ふ事を爲て其己に命じたまへる諸の事に背かざり  
 ければなり六 レハベアムとヤラベアムの間には其一生の間  
 戦争ありき七 アビヤムの其餘の行爲と凡て其爲たる事はユダの  
 王の歴代志の書に記載さるるにあらざりやアビヤムとヤラベアム  
 の間に戦争ありき八 アビヤム其先祖と俱に寝りしかば之をダビ  
 デの城に葬りぬ其子アサ之に代りて王と爲り九 イスラエルの王  
 ヤラベアムの第二十一年にアサ、ユダの王となり一〇 エルサレムに  
 て四十一年世を治めたり其母の名はマアカといひてアブサロム  
 の女なり一 一 アサは其父ダビデの如くエホバの目に適ふ事を爲  
 し二 男色を行ふ者を國より逐ひ出し其父祖等の造りたる諸の  
 偶像を除けり三 彼は亦其母マアカのアシラの像を造りしがた  
 めに之を貶して太后たらしめざりき而してアサ其像を毀ちて  
 キデロンの谷に焚棄たり四 但し崇 邱は除かざりき然どアサの  
 心は一生の間エホバに完全かりき五 彼其父の獻納めたる物と  
 己のをさめたる物金銀器をエホバの家に携へいりぬ六 アサ  
 とイスラエルの王バアシアの間に一生活の間戦争ありき七 イス  
 ラエルの王バアシア、ユダに攻上りユダの王アサの所に誰をも  
 往來せざらしめん爲にラマを築けり八 是に於てアサ王エホバ

の家の府庫と王の家の府庫に残れる所の金銀を盡く將て之を其  
 臣僕の手につし之をダマスコに住るスリアの王ヘジヨンの子タ  
 ブリモンの子なるベネハダデに遣はして言けるは「九 わが父と  
 爾の父の間の如く我と爾の間に約を立ん視よ我爾に金銀の  
 禮物を餽れり往て爾とイスラエルの王バアシアとの約を破り  
 彼をして我を離れて上らしめよ一〇 ベネハダデ、アサ王に聽きて  
 自己の軍勢の長等を遣はしてイスラエルの諸邑を攻めイヨ  
 ンとダンとアベルベテマアカおよびキンネレテの全地とナフタリ  
 の全地とを撃り三 バアシア間及びラマを築くことを罷てテル  
 ザに止り三 是に於てアサ王令をユダ全國に降したり一人も免  
 かれし者なし斯して即ちバアシアが用ひてラマを築きたる石と  
 材木を取きたらしめアサ王之用てベニヤミンのゲバとミズパ  
 を築けり三 アサの其餘の行爲と其諸の功業と凡て其爲たる事  
 および其建たる城邑はユダの王の歴代志の書に記載さるるにあ  
 らずや但し彼は年老るに及びて其足を病たり二 四 アサ其父祖と  
 時に寝りて其父ダビデの城に其父祖と偕に葬らる其子ヨシヤパ  
 テ之に代りて王と爲り三 五 ユダの王アサの第二二年にヤラベアム  
 の子ナダブ、イスラエルの王と爲り二 年イスラエルを治めたり二  
 六 彼エホバの目のまへに惡を爲其父の道に歩行み其イスラエル  
 に犯させたる罪を行へり七 爰にイツサカルの家のアヒヤの子  
 バアシア彼に敵して黨を結びペリシテ人に屬するギベトンにて  
 彼を撃り其はナダブとイスラエル皆ギベトンを圍み居たればな

リニハユダの王アサの第三年にバアシヤ彼を殺し彼に代りて王となれりニ九バアシヤ王となれる時ヤラベアムの全家を撃ち氣息ある者は一人もヤラベアムに残さずして盡く之を滅せりエホバの其僕シロ人アヒヤに由て言たまへる言の如しニ〇是はヤラベアムが犯し又イスラエルに犯させたる罪の爲め又彼がイスラエルの神エホバの怒を惹き起したる事に因るなりニナダブの其餘の行爲と凡て其爲たる事はイスラエルの王の歴代志の書に記載さるにあらざりやニアサとイスラエルの王バアシヤの間に一生のあひだ戦争ありきニユダの王アサの第三年にアヒヤの子バアシヤ、テルザに於てイスラエルの全地の王となりて二十四年を経たりニ四彼エホバの目のまへに惡を爲しヤラベアムの道にあゆみ其イスラエルに犯させたる罪を行へり

第一六章一爰にエホバの言ハナニの子エヒウに臨みバアシヤを責て曰くニ我爾を塵の中より擧て我民イスラエルの上に君となしたるに爾はヤラベアムの道に歩行みわが民イスラエルに罪を犯させて其罪をもて我怒を激したりニされば我バアシヤの後と其家の後を除き爾の家をしてネバテの子ヤラベアムの家の如くならしむべし四バアシヤに屬する者の城邑に死るをば犬之を食ひ彼に屬する者の野に死るをば天空の鳥これを食はんと五バアシヤの其餘の行爲と其爲たる事と其功績はイスラエルの王の歴代志の書に記載さるにあらざりや六バアシヤ其父祖と俱に寢りてテルザに葬らる其子エラ之に代りて王となれり七エホバの

言亦ハナニの子エヒウに由て臨みバアシヤと其家を責む是は彼がエホバの目のまへに諸の惡事を行ひ其手の所爲を以てエホバの怒を激してヤラベアムの家に倣たるに縁り又其ナダブを殺したるに縁てなりハユダの王アサの第二十六年にバアシヤの子エラ、テルザに於てイスラエルの王となりて二年を経たり九彼がテルザにありてテルザの宮殿の宰アルザの家において飲み酔たる時其僕ジムリ戰車の半を督どる者之に敵して黨を結びベリ〇即ちユダの王アサの第二十七年にジムリ入て彼を撃ち彼を殺し彼にかはりて王となれり一彼王となりて其位に上れる時バアシヤの全家を殺し男子は其親族にもあれ朋友にもあれ一人も之に遺さざりきニジムリスバアシヤの全家を滅ぼせりエホバが預言者エヒウに由てバアシヤを責て言たまへる言の如しニ是はバアシヤの諸の罪と其子エラの罪のためなり彼等は罪を犯し又イスラエルをして罪を犯し其虚物を以てイスラエルの神エホバの怒を激さしめたり四エラの其餘の行爲と凡て其爲たる事はイスラエルの王の歴代志の書に記載さるにあらざりや五ユダの王アサの第二十七年にジムリ、テルザにて七日の間王たりき民はベリシテ人に屬するギベトンに向ひて陣どり居たりしが六陣どれる民ジムリは黨を結び亦王を殺したりと言を聞り是に於てイスラエル皆其日陣營にて軍の長オムリをイスラエルの王となせり七オムリ乃ちイスラエルの衆と偕にギベトンより上りてテルザを圍り一ハジムリ其邑の陥るを見て

王の家の天守に入り王の家に火をかけて其中に死に九是は其犯したる罪によりてなり彼エホバの目のまへに惡を爲しヤラベアムの道にあゆみヤラベアムがイスラエルに罪を犯させて爲したるところの罪を行ひたり二〇ジムリの其餘の行爲と其なしたる徒黨はイスラエルの王の歴代志の書に記載するにあらずや二其時にイスラエルの民二に分れ民の半はギナラの子テブ二に從ひて之を王となさんとし半はオムリに從へり三オムリに從へる民ギナテの子テブ二に從へる民に勝てテブ二は死てオムリ王となれり三ユダの王アサの第三十一年にオムリ、イスラエルの王となりて十二年を経たり彼テルザにて六年王たりき四彼銀二タラントを以てセメルよりサマリア山を買ひ其上に邑を建て其建たる邑の名を其山の故主なりしセメルの名に循ひてサマリアと稱り五オムリ、エホバの目のまへに惡を爲し其先に在し凡の者よりも惡き事を行へり二六彼はネバテの子ヤラベアムの凡の道にあゆみヤラベアムがイスラエルをして罪を犯し其虚物を以てイスラエルの神エホバの怒をおこさしめたる其罪を行へり七オムリの爲たる其餘の行爲と其なしたる功績はイスラエルの王の歴代志の書に記載するにあらずや二八オムリ其父祖と偕に寝りてサマリアに葬らる其子アハブ之に代りて王となれり二九ユダの王アサの第三十八年にオムリの子アハブ、イスラエルの王となれりオムリの子アハブ、サマリアに於て二十二年イストラエルに王たりき三〇オムリの子アハブは其先に在し凡の者

よりも多くエホバの目のまへに惡を爲り三 彼はネバテの子ヤラベアムの罪を行ふ事を輕き事となせしがシドン人の王エテバルの女イゼベルを妻に娶り往てバアルに事へ之を拜めり三 彼其サマリアに建たるバアルの家の中にバアルのために壇を築けり三 三アハブ又アシラ像を作れりアハブは其先にありしイスラエルの諸の王よりも甚だしくイスラエルの神エホバの怒を激すことを爲り三 其代にベテル人ヒエル、エリコを建たり彼其基を置る時に長子アピラムを喪ひ其門を立る時に季子セグブを喪へりヌンの子ヨシユアによりてエホバの言たまへるがごとし

第一七章一ギレアデに住れるテシベ人エリヤ、アハブに言ふ吾事ふるイスラエルの神エホバは活くわが言なき時は數年雨露あらざるべしと二エホバの言彼に臨みて曰く三 爾此より往て東に赴きヨルダンの前にあるケリテ川に身を匿せ四 爾其川の水を飲べし我鴉に命じて彼處にて爾を養はしむと五 彼往てエホバの言の如く爲り即ち往てヨルダンの前にあるケリテ川に住り六 彼の所に鴉朝にパンと肉亦夕にパンと肉を運べり彼は川に飲り七しかるに國に雨なかりければ數日の後其川涸ぬハエホバの言彼に臨みて曰九 起てシドンに屬するザレバテに往て其處に住め視よ我彼處の嫠婦に命じて爾を養はしむと一〇 彼起てザレバテに往けるが邑の門に至れる時一人の嫠婦の其處に薪を採ふを見たり乃ち之を呼て曰けるは請ふ器に少許の水を我

に携來りて我に飲せよと二彼之を携きたらんとて往る時エリヤ彼を呼て言けるは請ふ爾の手に一口のパンを我に取りきたれと三彼ひけるは爾の神エホバは活く我はパン無し只桶に一握の粉と瓶に少許の油あるのみ觀よ我は二の薪を採ふ我りてわれとわが子のために調理て之をくらひて死んとす三エリヤ彼に言ふ懼るなかれ往て汝がいへる如くせよ但し先其をもてわが爲に小ぎパン一を作りて我に携きたり其後爾のためと爾の子のために作るべし四其はエホバの雨を地の面に降したまふ日までは其桶の粉は竭ず其瓶の油は絶すとイスラエルの神エホバ言たまへばなりと五彼ゆきてエリヤの言ることくなし彼と其家及びエリヤ久く食へり六エホバのエリヤに由て言たまひし言のごとく桶の粉は竭ず瓶の油は絶ざりき七是等の事の後其家の主母なる婦の子疾に罹しが其病甚だ劇くして氣息其中に絶て無きに至れり八婦エリヤに言けるは神の人よ汝なんぞ吾事に關涉るべけんや汝はわが罪を憶ひ出さしめんため又わが子を死しめんために我に來れるか九エリヤ彼に爾の子を我に授せとて之を其懷より取り之を己の居る椽に抱のぼりて己の牀に臥しめ二〇エホバに呼はりていひけるは吾神エホバよ爾は亦わがともに宿る龔に窟をくだして其子を死しめたまふやと三而して三度身を伸して其子の上に伏しエホバに呼はりて言ふわが神エホバ願くは此子の魂を中に歸しめたまへと三二エホバ、エリヤの聲を聽いたたまひしかば其子の魂、中にかへりて生た

り三エリヤ乃ち其子を取て之を椽より家に携くだり其母に與していひけるは視よ爾の子は生くと四婦エリヤにいひけるは此に縁て我は爾が神の人にして爾の口にあるエホバの言は眞實なるを知ると

第一八章一衆多の日を経たるのち第三年にエホバの言エリヤに臨みて曰く往て爾の身をアハブに示せ我雨を地の面に降さんと二エリヤ其身をアハブに示さんとて往り時に饑饉サマリアに甚しかりき三茲にアハブ家宰なるオバデヤを召たり四オバデヤは大にエホバを畏みたる者にてイゼベルがエホバの預言者を絶たる時にオバデヤ百人の預言者を取て之を五十人づつ洞穴に匿しパンと水をもて之を養へり五アハブ、オバデヤにいひけるは國中の水の諸の源と諸の川に往け馬と騾を生活むる草を得ることあらん然ば我儕牲畜を盡くは失なふに至らじと六彼等巡るべき地を二人に分ちアハブは獨にて此途に往きオバデヤは獨にて彼途に往けり七オバデヤ途にありし時觀よエリヤ彼に遭り彼エリヤを識て伏て言けるは我主エリヤ汝は此に居たまふや八エリヤ彼に言けるは然り往て汝の主エリヤは此にありと告よ九我を殺さしめんとする〇汝の神エホバは生くわが主の人を遣はして汝を尋ねざる民はなく國はなし若しエリヤは在らずといふ時は其國其民をして汝を見ずといふ誓を爲しめたり二汝今言ふ往て汝の主エリヤは此にありと告よと三然ど我汝をはな

れて往ときエホバの靈我しらざる處に汝を携へゆかん我至りてアハブに告て彼汝を尋獲ざる時は彼我を殺さんながら僕はわが幼少よりエホバを畏むなりニイゼベルがエホバの預言者を殺したる時に吾なしたる事即ち我がエホバの預言者の中百人を五十人づつ洞穴に匿してパンと水を以て之を養ひし事は吾主に聞えざりしやニ四しかるに今汝言ふ往て汝の主にエリヤは此にありと告よと然らば彼我を殺すならんニ五エリヤいひけるは我が事ふる萬軍のエホバは活く我は必ず今日わが身を彼に示すべしとニ六オバデヤ乃ち往てアハブに會ひ之に告ければアハブはエリヤに會んとて往きけるがニ七アハブ、エリヤを見し時アハブ、エリヤに言けるは汝イスラエルを惱ます者此にをるかニ八彼答へけるは我はイスラエルを惱さず但汝と汝の父の家之を惱すなり即ち汝等はエホバの命令を棄て且汝はバアルに從ひたりニ九されば人を遣てイスラエルの諸の人およびバアルの預言者四百五十人並にアシラ像の預言者四百人イゼベルの席に食ふ者をカルメル山に集めて我に詣しめよとニ〇是においてアハブ、イスラエルの都の子孫の中に人を遣り預言者をカルメル山に集めたりニ一時にエリヤ總の民に近づきて言けるは汝等何時まで二の物の間にまよふやエホバ若し神ならば之に従へされどバアル若し神ならば之に従へと民は一言も彼に答ざりきニ三エリヤ民に言けるは惟我一人存りてエホバの預言者たり然どバアルの預言者は四百五十人ありニ四然ば二の犢を

我儕に與へよ彼等は其一の犢を選みて之を載り割き薪の上に載せて火を縦たずに置べし我も其一の犢を調理へ薪の上に載せて火を縦ずに置べしニ四斯して汝等は汝等の神の名を顛べ我はエホバの名を顛べし而して火をもて應る神と爲べしと民皆答て斯言は善と語りニ五エリヤ、バアルの預言者に言けるは汝等は多ければ一の犢を選みて最初に調理へ汝等の神の名を呼ぶべし但し火を縦なかれとニ六彼等乃ち其與られたる犢を取て調理へ朝より午にいたるまでバアルの名を顛てバアルよ我儕に應へたまへと言り然ど何の聲もなく又何の應る者もなかりければ彼等は其造りたる壇のまはりに踊れりニ七日中におよびてエリヤ彼等を嘲りていひけるは大聲をあげて呼べ彼は神なればなり彼は黙想をるか他處に行しか又は旅にあるか或は假寐で醒さるべきかとニ八是において彼等は大聲に呼はり其例に循ひて刀劍と槍を以て其身を傷つけ血を其身に流すに至れりニ九斯して午時するに至りしが彼等なほ預言を言ひて晩の祭物を獻ぐる時にまで及べり然ども何の聲もなく又何の應ふる者もなく又何の顧る者もなかりきニ〇時にエリヤ都の民にむかひて我に近よれと言ければ民皆彼に近よれり彼乃ち破壊たるエホバの壇を修理へりニ三エリヤ、ヤコブの子等の支派の數に循ひて十二の石を取れり（エホバの言昔ヤコブに臨みてイスラエルを汝の名とすべしと言り）ニ四彼其石にてエホバの名を以て壇を築き壇の周圍に種子ニセヤを容べき溝を作れりニ五又薪を陳列べ犢

を截割て薪の上に載せて言けるは四の桶に水を滿て燔祭と薪の上にて沃げ三又いひけるは再び之を爲せと再びこれをなせしかば又言ふ三次これを爲せと三次これをなせり三六晩の祭物を獻ぐる時に及て預言者エリヤ近よりにて言けるはアブラハム、イサク、イスラエルの神エホバよ汝のイスラエルにおいて神なることおよび我が汝の僕にして汝の言に循ひて是等の諸の事を爲せることを今日知しめたまへ三七エホバよ我に應へたまへ我に應へたまへ此民をして汝エホバは神なることおよび汝は彼等の心を翻へしたまふといふことを知しめたまへと三八時にエホバの火降りて燔祭と薪と石と塵とを焚つくせり亦溝の水を飮酒せり三九民皆見て伏ていひけるはエホバは神なりエホバは神なり四〇エリヤ彼等に言けるはバアルの預言者を執へよ其一人をも逃遁しむる勿れと即ち之を執へたればエリヤ之をキシヨン川に曳下りて彼處に之を殺せり四一斯てエリヤ、アハブにいひけるは大雷雨の聲あれば汝上りて食飲すべしと四二アハブ乃ち食飲せんとて上れり然どエリヤはカルメルの嶺に登り地に伏て其面を膝の間に容みたりしが四三其少者にいひけるは請ふ上りて海の方を望めと彼上り望みて何もなしといひければ再び往けといひて遂に七次に及びり四四第七次に及びて彼いひけるは視よ海より人の手のごとく微の雲起るとエリヤいふ上りてアハブに雨に阻められざるやう車を備へて下りたまへと言ふべしと四五驟に雲と風おこ

り雷漢黒くなりて大雨ありきアハブはエズレルに乗り往り四六エホバの能力エリヤに臨みて彼其腰を束帯びエズレルの入口までアハブの前に趨りゆけり

第一九章一アハブ、イゼベルにエリヤの凡て爲たる事及び其如何に諸の預言者を刀劍にて殺したるかを告しかばニイゼベル使をエリヤに遣はして言けるは神等斯なし復重て斯なしたまへ我必ず明日の今時分汝の命を彼人々の一人の生命のごとくせんと三かれ恐れて起ち其生命のために逃げ往てユダに屬するベエルシバに至り少者を其處に遣して四自ら一日程ほど曠野に入り往て金雀花の下に坐し其身の死んことを求めていふエホバよ足り今わが生命を取たまへ我はわが父祖よりも善にはあらざるなりと五彼金雀花の下に伏して寝りしが天の使彼に捫り興て食へと言ければ六彼見しに其頭の側に炭に焼きたるパンと一瓶の水ありき乃ち食ひ飲て復偃臥たり七エホバの使者復再び來りて彼に捫りていひけるは興て食へ其は途長くして汝勝べからざればなりと八彼興て食ひ且飲み其食の力に仗て四十日四十夜行て神の山ホレブに至る九彼處にて彼洞穴に入りて其處に宿りしが主の言彼に臨みて彼にいひけるはエリヤよ汝此にて何を爲や一〇彼いふ我は萬軍の神エホバのために甚だ熱心なり其はイスラエルの子孫汝の契約を棄て汝の壇を毀ち刀劍を以て汝の預言者を殺したればなり惟我一人存るに彼等我生命を取んことを求むと一エホバ言たまひけるは出てエホバの前に山の上

に立てと茲にエホバ過ゆきたまふにエホバのまへに當りて大なる強き風山を裂き岩石を碎しが風の中にはエホバ在さざりき風の後に地震ありしが地震の中にはエホバ在さざりきニ又地震の後に火ありしが火の中にはエホバ在さざりき火の後に靜なる細微き聲ありきニエリヤ聞て面を外套に蒙りて出でて洞穴の口に立ちけるに聲ありて彼に臨みエリヤよ汝此にて何をなすやといふニ四かれいふ我は萬軍の神エホバの爲に甚だ熱心なり其はイスラエルの子孫汝の契約を棄て汝の壇を毀ち刀劍を以て汝の預言者を殺したればなり惟我一人存れるに彼等我が生命を取んことを求むとニエホバかれに言たまひけるは往て汝の途に返りダマスコの曠野に至り往てハザエルに膏を沃ぎてスリアの王となせ六又汝ニムシの子エヒウに膏を注ぎてイスラエルの王となすべし又アベルメホラのシヤパテの子エリシヤに膏をそそぎ爾に代りて預言者とならしむべし七ハザエルの刀劍を逃るる者をはエヒウ殺さんエヒウの刀劍を逃るる者をはエリシヤ殺さん八又我イスラエルの中に七千人を遣さん皆其膝をバアルに踞めず其口を之に接ざる者なりと九エリヤ彼處よりゆきてシヤパテの子エリシヤに遣ふ彼は十二軛の牛を其前に行しめて己は其第十二の牛と偕にありて耕し居たりエリヤ彼の所にわたりゆきて外套を其上にかけたれば二牛を棄てエリヤの後趨ゆきて言けるは請ふ我をしてわが父母に接吻せしめよしかるのち我爾にしたがはんとエリヤかれに言けるは行け還れ我

爾に何をなしたるやとニエリシヤ彼をはなれて還り一軛の牛をとりて之をころし牛の器具を焚て其肉を煮て民にあたへて食はしめ起て往きエリヤに従ひて之に事へたり  
 第二〇章一スリアの王ベネハダデ其軍勢を悉く集む王三十二人彼と偕にあり又馬と戰車とあり乃ち上りてサマリアを圍み之を攻むニ彼使をイスラエルの王アハブに遣し邑に至りて彼に言しめけるはベネハダデ斯言ふニ爾の金銀は我の所有なり亦爾の妻等と爾の子等の美秀者は我の所有なり四イスラエルの王答へて言けるは王わが主よ爾の言の如く我と我が有つ者は皆爾の所有なり五使者再び來りて言けるはベネハダデ斯語て言ふ我爾に爾我に爾の金銀妻子を付すべしと言遣れり六然ど明日今頃我が僕を爾に遣さん彼等爾の家と爾の臣僕の家を探索りて凡て爾の日に好ましく見ゆる者を其手に置取り去るべしと七是においてイスラエルの王國の長老を皆召て言けるは請ふ爾等見て此人の害をなさんと求るをわれ彼人を我に遣りて我が妻子とわが金銀を索めたり而るに我之を謝絶ざりしと八諸の長老および民皆彼に言けるは爾聽なかれ許すなかれと九是故に彼ベネハダデの使者に言けるは王わが主に告ふ爾が最初に僕に言つかはしたる事は皆我爲べし然ど此事は我爲あたはずと使者往て反命をなせり一〇ベネハダデ彼に言つかはしけるは神等我に斯なし亦重て斯なしたまへサマリアの塵は我に従ふ諸の民の手に滿るに足ざるべしとニイスラエルの王答へて帶る者は

解く者の如く誇るべからずと告よと言りニベネハダデ天幕に  
 ありて王等と飲みたりしが此事を聞て其臣僕に言けるは爾等  
 陣列を爲せと即ち邑に向ひて陣列をなせりニ三時に一人の  
 預言者イスラエルの王アハブの許に至りて言けるはエホバ斯言  
 たまふ爾此諸の大軍を見るや視よ我今日之を爾の手に付さん  
 爾は我がエホバなるを知らんと四アハブ言けるは誰を  
 以てせんか彼いひけるはエホバ斯いひたまふ諸省の牧伯の少者  
 を以てすべしアハブ言ふ誰か戦争を始むべき彼答けるは爾な  
 りと二五アハブ乃ち諸省の牧伯の少者を核るに二百三十二人  
 あり次に凡の民即ちイスラエルの凡の子孫を核るに七千人あ  
 り二六彼等日中出たちたりしがベネハダデは天幕にて王等即ち  
 己を助る三十二人の王等とともに飲て醉居たり七諸省の牧伯  
 の少者等先に出たりベネハダデ人を出ずニサマリアより人衆出  
 來ると彼に告げれば一八彼言けるは和睦のために出來るも之を  
 生擒べし又戦争のために出來るも之を生擒べしと一九諸省の  
 牧伯の是等の少者および之に従ふ軍勢邑より出きたり二〇各  
 其敵手を撃ち殺しければスリア人逃たりイスラエル之を追ふス  
 リアの王ベネハダデは馬に乗り騎兵を從へて逃遁たり二一イ  
 ラエルの王出て馬と戰車を撃ち又大にスリア人を撃殺せりニ  
 茲に彼預言者イスラエルの王の許に詣て彼に言けるは往て爾の  
 力を養ひ爾の爲すべき事を知り辨ぶべし年歸らばスリアの王  
 爾に攻上るべければなりと三スリアの王の臣僕王に言けるは

彼等の神等は山崗の神なるが故に彼等は我等よりも強かりしな  
 り然ども我等若平地に於て彼等と戦はば必ず彼等よりも強かる  
 べし三四但し此事を爲せ即ち王等を除きて各其處を離しめ  
 方伯を置て之に代べし二五又爾の失ひたる軍勢に均き軍勢を爾  
 のために備へ馬は馬戰車は戰車をもて補ふべし斯して我儕  
 平地において彼等と戦はば必ず彼等よりも強かるべしと彼其  
 言を聽いれて然なせり二六年かへるに及びてベネハダデ、スリ  
 ア人を核めてアペクに上りイスラエルと戦はんとす二モイスラ  
 エルの子孫核められ兵糧を受けて彼等に出會んとて往けりイス  
 ラエルの子孫は山羊の二の小群の如く彼等の前に陣どりしがス  
 リア人は其地に充滿たり二八時に神の人至りてイスラエルの王  
 に告ていひけるはエホバ斯言たまふスリア人エホバは山嶽の神  
 にして谿谷の神にあらざと言ふによりて我此諸の大軍を爾の  
 手に付すべし爾等は我がエホバなるを知らざらんと二九彼等  
 七日互に相對て陣どり第七日におよびて戦争を交接しがイス  
 ラエルの子孫一日にスリア人の歩兵十萬人を殺しければ三〇其  
 餘の者はアペクに逃て邑に入ぬ然るに其石垣崩れて其存れる二  
 萬七千人の上になふれたりベネハダデは逃て邑にいたり奥の間  
 に入ぬ三其臣僕彼にいひけるは我儕イスラエルの家の王等は  
 仁慈ある王なりと聞り請ふ我儕粗麻布を腰につけ繩を頭につけ  
 てイスラエルの王の所にいたらん彼爾の命を生むることあら  
 んと三斯彼等粗麻布を腰にまき繩を頭にまきてイスラエルの

王の所にいたりていひけるは爾の僕ベネハダデ請ふ我が生命を生しめたまへと言ふとアハブいひけるは彼は尚生をるや彼はわが兄弟なりと三 其人々これを吉兆と爲し速に彼の言を承て爾の兄弟ベネハダデといへり彼言けるは爾等ゆきて彼を導きたるべしと是においてベネハダデ彼の所に出来りしかば彼之を車に登しめたり四 ベネハダデ彼に言けるは我父の爾の父より取たる諸邑は我返すべし又我が父のサマリアに造りたる如く爾ダマスコに於て爾のために街衢を作るべしアハブ言ふ我此契約を以て爾を歸さんと斯彼と契約を爲て彼を歸せり五 爰に預言者の徒の一人エホバの言によりて其同儕に請我を撃てといひけるが其人彼を撃つことを肯せざりしかば六 彼其人に言ふ汝エホバの言を聴ざりしによりて視よ汝の我をはなれて往く時獅子汝をころさんと其人彼の側を離れて往きけるに獅子之に遇て之を殺せり三七 彼また他人に遭て請ふ我を撃といひければ其人之を撃ち撃て傷けたり三八 預言者往て王を途に待ち其目に掩巾をあてて儀容を變ふたりしが三九 王の經過の時王に呼はりていひけるは僕戰爭の中に出しに人轉りて一箇の人を我の所に曳きたりて言けるは此人を守れ若彼失ゆく事あらば汝の生命を彼の生命に代べし或は爾銀一タラントを出すべしと四〇 而るに僕此彼に事をなしたれば彼遂に失たりとイスラエルの王彼にいひけるは爾の擬定は然なるべし爾之を決めたり四一 彼急ぎて其目の掩巾を取除たればイスラエルの王彼が預言者の

一人なるを識り四二 彼王に言けるはエホバ斯言たまふ爾はわが殲滅んと定めたる人を爾の手より放ちたれば爾の命は彼の生命に代り爾の民は彼の民に代るべしと四三 イスラエルの王憂へ且怒て其家に赴きサマリアに至れり  
 第二章一 是等の事の後エズレル人ナボテ、エズレルに葡萄園を有ちぬたりしがサマリアの王アハブの殿の側に在りければ二 アハブ、ナボテに語て言けるは爾の葡萄園は近くわが家の側にあれば我に與へて蔬采の圃となさしめよ我之がために其よりも美き葡萄園を爾に與へん若し爾の心かなはば其價を銀にて爾に予へんと三 ナボテ、アハブに言けるはわが父祖の産業を爾に與ふる事は決て爲べからずエホバ禁じたまふと四 アハブはエズレル人ナボテの己に言し言のために憂ひ且怒りて其家に入ぬ其は彼わが父祖の産業を爾に與へじと言たればなりアハブ床に臥し其面を轉けて食をなさざりき五 其妻イゼベル彼の處にいりて彼に言けるは爾の心何を憂へて爾 食を爲ざるや六 彼之に言けるは我エズレル人ナボテに語りて爾の葡萄園を銀に易て我に與へよ若また爾 好ば我其に易て葡萄園を爾に與へんと彼に言たるに彼答へて我が葡萄園を爾に與へじと言たればなりと七 其妻イゼベル彼に言けるは爾今イステエルの國を治むることを爲すや興て食を爲し爾の心を樂ましめよ我エズレル人ナボテの葡萄園を爾に與へんと八 彼アハブの名をもて書を書き彼の印を捺し其邑にナボテとともに住る長老と貴き人に其書をおくれり

九 彼其書にしるして曰ふ斷食を宣傳てナボテを民の中に高く坐せしめよ○又邪なる人一人を彼のまへに坐せしめ彼に對ひて證を爲して爾神と王を詛ひたりと言しめよ斯して彼を曳出し石にて撃て死しめよと一其邑の人即ち其邑に住る長老および貴き人等イゼベルが己に言つかはしたる如く即ち彼が己に遣りたる書に書したる如く爲り二彼等斷食を宣達てナボテを民の中に高く坐せしめたり三時に二人の邪なる人入來りて其前に坐し其邪なる人民のまへにてナボテに對て證をなして言ふナボテ神と王を詛ひたりと人衆彼を邑の外に曳出し石にて之を撃て死しめたり四斯てイゼベルにナボテ撃れて死たりと言遣れり五イゼベル、ナボタの撃れて死たるを聞しかばイゼベル、アハブに言けるは起て彼エズレル人ナボテが銀に易て爾に與ることを拒みし葡萄園を取べし其はナボテは生をらず死たればなりと一六アハブ、ナボテの死たるを聞しかばアハブ起ちエズレル人ナボテの葡萄園を取んとて之に下れり七時にエホバの言テシベ人エリヤに臨みて曰ふ一八起て下りサマリヤにあるイスラエルの王アハブに會ふべし彼はナボテの葡萄園を取んとて彼處に下りるなり一九 爾彼に告て言ふべしエホバ斯言ふ爾は殺し亦取たるやと又爾彼に告て言ふべしエホバ斯言ふ犬ナボテの血を銛し處にて犬爾の身の血を銛べしと二〇アハブ、エリヤに言けるは我敵よ爾我に遇や彼言ふ我遇ふ爾エホバの目の前に惡を爲す事に身を委しに縁り二 我災害を爾に降し爾の後裔を除き

アハブに屬する男はイスラエルにありて繋かれたる者も繋げざる者も悉く絶ん三 又爾の家をネバテの子ヤラバアムの家の如くなしアヒヤの子バアシアの家のごとくならずべし是は爾我の怒を惹起しイスラエルをして罪を犯させたるに因てなり三イゼベルに關てエホバ亦語て言給ふ犬エズレルの濼にてイゼベルを食はん四 アハブに屬する者の邑に死るをば犬之を食ひ野に死るをば天空の鳥之を食はんと五 誠にアハブの如くエホバの目の前に惡をなす事に身をゆだねし者はあざりき其妻イゼベル之を懲懲たるなり六 彼はエホバがイスラエルの子孫のまへより逐退けたまひしアモリ人の凡てなせし如く偶像に從ひて甚だ惡むべき事を爲り七モアハブ此等の言を聞ける時其衣を裂き粗麻布を體にまとひ食を斷ち粗麻布に臥し遅々に歩行り八茲にエホバの言テシベ人エリヤに臨みて言ふ一九 爾アハブの我前に卑下るを見るや彼わがまへに卑下るに縁て我災害を彼の世に降さずして其子の世に災害を彼の家に降すべし

第二章一スリアとイスラエルの間に戰爭なくして三年を経たり二 第三年にユダの王ヨシヤパテ、イスラエルの王の所に降りり三イスラエルの王其臣僕に言けるはギレアデのラモテは我儕の所有なるを爾等知や然るに我儕はスリアの王の手より之を取んことをせずして黙しをるなり四 彼ヨシヤパテに言けるは爾我と共にギレアデのラモテに戦ひにゆくやヨシヤパテ、イスラエルの王にいひけるは我は爾のこごとくわが民は爾の民の如くわ

が馬は爾の馬の如しと五ヨシヤパテ、イスラエルの王に言ける  
 は請ふ今日エホバの言を問へ六是においてイスラエルの王預言  
 者四百人許を集めて之に言けるは我ギレアデのラモテに戦ひ  
 にゆくべきや又は罷べきや彼等曰けるは上るべし主之を王の手  
 に付したまふべしと七ヨシヤパテ曰けるは外に我儕の由て問べ  
 きエホバの預言者此にあらざるやハイスラエルの王ヨシヤパテ  
 に言けるは外にイムラの子ミカヤ一人あり之に由てエホバに問  
 ふことを得ん然ど彼は我に關て善事を預言せず唯惡事のみを  
 預言すれば我彼を惡むなりとヨシヤパテ曰けるは王然言たまふ  
 なかれと九是によりてイスラエルの王一箇の官吏を呼てイムラ  
 の子ミカヤを急ぎ來らしめよと語り一〇イスラエルの王および  
 ユダの王ヨシヤパテ朝衣を着てサマリヤの門の入口の廣場に  
 各其位に坐しぬたり預言者は皆其前に預言せり一ケナアナ  
 の子ゼデキヤ鐵の角を造りて言けるはエホバ斯言給ふ爾是等  
 を以てスリア人を抵觸て之を盡すべしと二預言者皆斯預言し  
 て言ふギレアデのラモテに上りて勝利を獲たまへエホバ之を王  
 の手に付したまふべしと三茲にミカヤを召んとて往たる使者  
 之に語りて言けるは預言者等の言一の口の如くにして王に善  
 し請ふ汝の言を彼等の一人の言の如くならしめて善事を言へと  
 四ミカヤ曰けるはエホバは生くエホバの我に言たまふ事は我  
 之を言んと五かくて彼王に至るに王彼に言けるはミカヤよ  
 我儕ギレアデのラモテに戦ひに往くべきや又は罷べきや彼王に

言けるは上りて勝利を得たまへエホバ之を王の手に付したまふ  
 べしと六王彼に言けるは我幾度汝を誓はせたらば汝エホバの  
 名を以て唯眞實のみを我に告るや七彼言けるは我イスラエルの  
 皆牧者なき羊のごとく山に散るを見たるにエホバ是等の者  
 は主なし各安然に其家に歸るべしと言たまへりと八イスラエ  
 ルの王ヨシヤパテに言けるは我汝に彼は我について善き事を  
 預言せず唯惡き事のみを預言すと告たるにあらすやと九ミカ  
 ヤ言けるは然ば汝エホバの言を聽べし我エホバの其位に坐し  
 めたまひて天の萬軍の其傍に右左に立つを見たるに一〇エホ  
 バ言たまひけるは誰かアハブを誘ひて彼をしてギレアデのラモ  
 テに上りて弊れしめんかと則ち一は此の如くせんと言ひ一は彼  
 の如くせんといへり二遂に一の靈進み出てエホバの前に立ち  
 我彼を誘はんと言ければ三エホバ彼に何を以てするかと言た  
 まふに我出て虚言を言ふ靈となりて其諸の預言者の口にあ  
 らんと語りエホバ言たまひけるは汝は誘ひ亦之を成し遂ん出て然  
 なすべしと三故に視よエホバ虚言を言ふ靈を爾の此諸の  
 預言者の口に入たまへり又エホバ爾に關て災禍あらんことを  
 言たまへりと四ケナアナの子ゼデキヤ近よりてミカヤの類を  
 批て言けるはエホバの靈何途より我を離れゆきて爾に語ふや二  
 五ミカヤいひけるは爾奥の間に入て身を匿す日に見るにいたら  
 ん六イスラエルの王言けるはミカヤを取て之を邑の宰アモン  
 と王の子ヨアシに曳かへりて言ふべしと七王斯言ふ此を牢に置

れて苦惱のパンと苦惱の水を以て之を養ひ我が平安に來るを待  
てとハミカヤ言けるは爾若眞に平安に歸るならばエホバ我に  
よりに言たまはざりしならん又曰けるは爾等民よ皆聽べし二元  
かくてイスラエルの王とユダの王ヨシヤパテ、ギレアデのラモ  
テに上れり三〇イスラエルの王ヨシヤパテに言けるは我装を改  
て戰陣の中に入らん然ど爾は王衣を衣るべしとイスラエルの  
王装を改て戰陣の中に入りぬ三三スリアの王其戰車の長三十  
二人に命じて言けるは爾等小者とも大者とも戰ふなけれ惟  
イスラエルの王とのみ戰へと三三戰車の長等ヨシヤパテを見  
て是必ずイスラエルの王ならんと言ひ身をめぐらして之と戰  
はんとしければヨシヤパテ號呼れり三三戰車の長彼がイスラ  
エルの王にあらざるを見しかば之を追ふことをやめて返れり三四  
茲に一個人の偶然弓を挽てイスラエルの王の胸當て艸摺の  
間を射たりければ彼其御者に言けるは我傷を受たれば爾の手を  
旋して我を軍中より出すべしと三五是日戰爭嚴くなりぬ王は車  
の中に扶持られて立ちスリア人に對ひをりしが晩景にいたりて  
死たり劍の血車の中に流る三六日の没る頃軍中に呼はりて曰ふ  
あり各其邑に各其郷に歸るべしと三七王死て携へられてサマ  
リアに至りたれば衆人王をサマリヤに葬れり三八又其車をサマ  
リアの池に濯ひけるに犬其血を舐たり又遊女其所に身をあらへ  
りエホバの言たまへる言の如し三九アハブの其餘の行爲と凡て  
其爲たる事と其建たる象牙の家と其建たる諸の邑はイスラエル

の王の歴代志の書に記載るにあらざりや四〇アハブ其父祖と共に  
寝りて其子アハジア之にかはりて王となれり四一アサの子ヨシ  
ヤパテ、イスラエルの王アハブの第四年にユダの王となれり四二  
ヨシヤパテ王となりし時三十五歳なりしがエルサレムにおいて  
二十五年王たりき其母の名はアズバといひてシルヒの女なり四三  
ヨシヤパテ其父アサの諸の道に歩行み轉て之を離れずエホバの  
目に適ふ事をなせり但し崇邱は除かざりき民尚崇邱に犠牲  
を献げ香を焚り四四ヨシヤパテ、イスラエルの王と和好を結べり  
四五ヨシヤパテの其餘の行爲と其なせる功績および如何に戰爭  
をなせしかはユダの王の歴代志の書に記載るにあらざりや四六彼  
其父アサの世に尚ほありし彼の男色を行ふ者の殘餘を國の中  
より逐はらへり四七當時エドムには王なくして代官王たりき四八  
ヨシヤパテ、タルシシの船を造りて金を取ためにオフルに往し  
めんとしたりしが其船エジオンゲベルに壞れたれば遂に往に至  
らざりき四九是においてアハブの子アハジア、ヨシヤパテに言け  
るはわが僕をして爾の僕と偕に船にて往しめよと然どヨシヤパ  
テ聽ざりき五〇ヨシヤパテ其父祖とともに寝りて其父ダビデの  
城邑に其父祖と共に葬らる其子ヨラム之に代て王となれり五一  
アハブの子アハジア、ユダの王ヨシヤパテの第十七年にサマリ  
アにてイスラエルの王となり二年イスラエルの治めたり五二彼  
はエホバの目のまへに惡をなし其父の道と其母の道および彼の  
イスラエルに罪を犯させたるネバテの子ヤラバアムの道に歩行

み<sup>五三</sup>バルに事<sup>つか</sup>へて之<sup>これ</sup>を<sup>をが</sup>拝<sup>をが</sup>みイスラエルの神<sup>かみ</sup>エホバの怒<sup>いかり</sup>を<sup>おこ</sup>激<sup>おこ</sup>  
せり其<sup>そのちち</sup>父<sup>すへ</sup>の凡<sup>おこな</sup>て行<sup>おこな</sup>へるがごとし